

# 青森県教育支援ファイル

(「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」)

## 作成の手引き

### 改訂版

平成30年3月

青森県教育委員会

## はじめに

平成28年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、学校を含む公的機関においては、合理的配慮の提供が義務付けられるなど、共生社会の形成に向け、連続した多様な学びの場における「十分な教育」が求められております。

また、平成29年3月31日に公示された小学校及び中学校の新学習指導要領の総則においては、障害のある児童生徒などについて、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を「作成し、活用することに努めるもの」とされ、特に、特別支援学級に在籍する児童生徒や通級による指導を受ける児童生徒について、「個々の児童生徒の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するもの」と示されたほか、高等学校における通級による指導が制度化され、平成30年4月から運用開始となるなど、インクルーシブ教育システム構築のため、これらの計画の効果的な活用が一層望まれているところです。

県教育委員会では、発達障害など特別な教育的ニーズのある児童生徒の学びを支援するため、地域にある特別支援教育のノウハウを集約・共有する仕組みを構築するとともに、県全域における特別支援教育の充実・強化を図ることを目的とし、平成28年度から県重点事業として「発達障害等のある児童生徒の支援体制強化事業」を展開してきました。

本事業の一環として開発した「青森県教育支援ファイル」は、個別の教育支援計画と個別の指導計画をまとめ、特別な教育的ニーズのある児童生徒の一貫した指導及び支援の充実を図ることを目的としたものであります。昨年度は、個別の教育支援計画と個別の指導計画の様式例、諸計画の作成のポイント、小・中学校の通常の学級に在籍する発達障害等のある児童生徒の記入例などを掲載した「青森県教育支援ファイル作成の手引き」を作成したところですが、今年度は、高等学校に在籍する発達障害等のある生徒、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒、特別支援学校に在籍する児童生徒の記入例を追加し、内容を充実させました。

各校において、本手引きを活用することにより、「青森県教育支援ファイル」を作成し、特別な教育的ニーズのある児童生徒の「十分な教育」を目指すとともに、校内支援体制の一層の推進に努めていただきますようお願いいたします。

最後に、本書の作成に携わっていただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成30年3月

青森県教育庁  
学校教育課長 一戸利則



# 目 次

はじめに

1 青森県教育支援ファイルに関するQ & A	
Q 1 青森県教育支援ファイルとは何ですか	2
Q 2 個別の教育支援計画の作成のメリットは何ですか	3
Q 3 個別の教育支援計画の作成のポイントは何ですか	4
Q 4 合理的配慮とは何ですか	4
Q 5 個別の教育支援計画と合理的配慮とはどのような関係がありますか	5
Q 6 合理的配慮と授業等における手立て・支援の違いは何ですか	5
Q 7 個別の教育支援計画の作成手順はどうなっていますか	6
Q 8 個別の指導計画の作成のポイントは何ですか	7
Q 9 各計画の引き継ぎのポイントは何ですか	7
Q 10 特別支援学級において交流及び共同学習を促進するポイントは何ですか	8
2 個別の教育支援計画と個別の指導計画の様式例	
個別の教育支援計画	10
個別の指導計画	11
3 個別の教育支援計画と個別の指導計画の記入のポイント	
個別の教育支援計画	14
個別の指導計画	15
4 個別の教育支援計画と個別の指導計画の記入例	
(1) 通常の学級に在籍する児童生徒の記入例	
ア 小・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒の記入例	
自閉症<中学校1年生のケース>	18
学習障害<小学校4年生のケース>	20
注意欠陥多動性障害<小学校1年生のケース>	22
イ 高等学校に在籍する生徒の記入例	
自閉症<2年生のケース>	24
学習障害<2年生のケース>	26
注意欠陥多動性障害<1年生のケース>	28
(2) 小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の記入例	
知的障害<小学校4年生のケース>	30
肢体不自由<小学校4年生のケース>	32
病弱・身体虚弱<小学校6年生のケース>	34
弱視<小学校3年生のケース>	36
難聴<小学校4年生のケース>	38
自閉症・情緒障害<小学校5年生のケース>	40
自閉症・情緒障害<中学校2年生のケース>	42

(3) 特別支援学校に在籍する児童生徒の記入例	
視覚障害<小学部1年生のケース>.....	44
聴覚障害<中学部1年生のケース>.....	46
知的障害<高等部1年生のケース>.....	48
肢体不自由<高等部2年生のケース>.....	50
病弱<中学部1年生のケース>.....	52

5 資料	
相談支援ファイルの記入例.....	56
学校における「合理的配慮」の観点（「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」より引用）.....	80
関係機関等のホームページアドレス.....	92

# 1 青森県教育支援ファイルに関するQ&A

Q 1	青森県教育支援ファイルとは何ですか . . . . .	2
Q 2	個別の教育支援計画の作成のメリットは何ですか . . . . .	3
Q 3	個別の教育支援計画の作成のポイントは何ですか . . . . .	4
Q 4	合理的配慮とは何ですか . . . . .	4
Q 5	個別の教育支援計画と合理的配慮とはどのような 関係がありますか . . . . .	5
Q 6	合理的配慮と授業等における手立て・支援の違いは 何ですか . . . . .	5
Q 7	個別の教育支援計画の作成手順はどうなっていますか . . . . .	6
Q 8	個別の指導計画の作成のポイントは何ですか . . . . .	7
Q 9	各計画の引き継ぎのポイントは何ですか . . . . .	7
Q 10	特別支援学級において交流及び共同学習を促進する ポイントは何ですか . . . . .	8

## Q1 青森県教育支援ファイルとは何ですか。

A

青森県教育支援ファイルとは、小・中学校等において、特別な教育的ニーズのある児童生徒の一貫した指導及び支援の充実を図ることを目的とし、個別の教育支援計画と個別の指導計画をまとめたものです。このほか、指導・支援に係る資料や平成24年に県教育委員会が作成した「相談支援ファイル」を加え、青森県教育支援ファイルとして、県全体での活用を目指すものです。

「相談支援ファイル」とは、特別な教育的ニーズのある児童生徒や保護者が必要な支援をスムーズに受けることができるように、本人に関する教育、医療、保健、福祉、労働等に関する情報をまとめたものです。

個別の教育支援計画とは、関係機関との連携を図るための長期的な視点に立った計画のことです。特別な教育的ニーズのある児童生徒について、乳幼児期から学校卒業後までの一貫した長期的な計画を学校が中心となって作成します。作成に当たっては関係機関との連携が必要であり、また、保護者の参画や意見等を聴くことなどが求められます。

個別の指導計画とは、指導を行うためのきめ細かい計画のことです。児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ指導計画です。例えば、単元や学期、学年等ごとに作成され、それに基づいた指導が行われます。

青森県教育支援ファイルを活用することで、担当者間の情報共有を円滑にし、特別な教育的ニーズのある児童生徒の一人一人のニーズを把握しながら、長期的な視点による一貫した支援が可能となります。

本手引きは、平成28年度、小・中学校の通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒を対象とした個別の教育支援計画と個別の指導計画の様式例、記入のポイント、記入例等を掲載し作成した「青森県教育支援ファイル（「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」）作成の手引き」に加え、高等学校及び特別支援学級、特別支援学校における個別の教育支援計画と個別の指導計画の記入例を追加した改訂版です。

**Q2 個別の教育支援計画の作成のメリットは何ですか。**

A

個別の教育支援計画の作成のメリットについて、

- ①児童生徒の教育的ニーズの適切な把握
- ②支援内容の明確化
- ③関係者間の共通認識の醸成
- ④家庭や医療、福祉、保健、労働等の関係機関との連携強化
- ⑤定期的な見直し等による継続的な支援

などの効果が期待できます。

特別な教育的ニーズのある児童生徒が、自立し、社会参加していくためには、教育だけでなく、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取り組みを含め、関係機関等の密接な連携・協力の下に、多様でありながら、一貫した支援が必要です。

個別の教育支援計画の作成に当たっては、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関わる様々な関係者が、児童生徒の障害の状態や学習上又は生活上の困難に関わる情報を共有し、支援内容、関係者の役割分担等について共通理解を図ることが大切です。



### Q3 個別の教育支援計画の作成のポイントは何ですか。

A

個別の教育支援計画の作成のポイントは、以下のような点が挙げられます。

#### ①保護者の参画

保護者を重要な支援者と位置付け、保護者の意見を十分に踏まえます。また、本人及び保護者と合理的配慮の具体的内容について合意形成を図ります。

#### ②関係機関との連携

関係機関相互の専門性と支援の内容を確認し、役割を明確にします。

#### ③具体的な支援内容の設定と評価

関係機関での支援内容の変更等を把握し、支援目標、内容、方法、合理的配慮等の修正も含めて一貫した支援を提供できるようにします。

#### ④個別の指導計画への反映

総合的な計画としての個別の教育支援計画を踏まえ、指導の具体化を図るための個別の指導計画を作成します。

### Q4 合理的配慮とは何ですか。

A

「障害者の権利に関する条約」の「第二条定義」において、「合理的配慮」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」とされています。

また、平成28年4月1日より「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」いわゆる「障害者差別解消法」が施行されました。これにより、各学校においては発達障害を含めた障害のある児童生徒への「不当な差別的な取扱い」の禁止、及び「合理的配慮」の提供が義務付けられています。

なお、学校における「合理的配慮」の観点として、中央教育審議会初等中等教育分科会が「教育内容・方法」「支援体制」「施設・設備」の3観点と11項目を例示しています。

(資料 学校における「合理的配慮」の観点を参照)

**Q5 個別の教育支援計画と合理的配慮はどのような関係がありますか。**

A

合理的配慮の具体的内容については、学校の設置者及び学校と本人及び保護者で可能な限り発達の段階を考慮しつつ合意形成を図った上で、提供されることが望ましく、その内容を個別の教育支援計画に明記することが重要です。

**Q6 合理的配慮と授業等における手立て・支援の違いは何ですか。**

A

合理的配慮は、本人・保護者の意思表示により、提供されるものであり、授業等における手立て・支援は学習活動を行う上で教員の側が指導内容や方法等を工夫・配慮するものです。

合理的配慮の例として、Aさんから「体育館の集会に参加したいけれど、音が耳に突き刺さるように感じて怖いので環境を調整して欲しい」と訴えがあれば、変更及び調整が可能か検討します。「イヤーマフをして参加する。また音声による進行だけでなく、視覚的に分かるように映像等を取り入れる」ことを提案します。本人及び保護者の合意が得られれば、どの程度の音量なら大丈夫なのか、どのような視覚的支援なら分かりやすいのか、Aさんに合わせた方法を個別に具体化していきます。

ただし、本人・保護者から意思表示がない場合でも、学校が本人・保護者とできる限り合意形成を図り、必要な合理的配慮を明らかにすることも大切です。

中央教育審議会初等中等教育分科会による「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」の別表には、障害種ごとの合理的配慮が示されており、本手引きの資料として掲載していますので、参考にしてください。

## Q7 個別の教育支援計画の作成手順はどうなっていますか。

A

以下に参考例を示しますが、各校では、実情に合わせて再構成し、作成を進めてください。

### 【個別の教育支援計画の作成準備】

○児童生徒・保護者の同意の下に、関係機関と連携して作成のための準備を進める。

### 【児童生徒の実態把握】

○児童生徒・保護者や関係機関と連携して情報を把握する。

- ・児童生徒の状況（障害や発達の状況等）
- ・児童生徒を取り巻く環境（家族や支援者の状況等）
- ・児童生徒及び周辺の課題
- ・児童生徒・保護者の現在及び将来の生活についての希望
- ・支援資源の整理

◇ICF（国際生活機能分類）を活用する。ICFでは、人間の生活機能は「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の三つの要素で構成され、それらの生活機能に支障がある状態を「障害」と捉えており、生活機能と障害の状態は、健康状態や環境因子等と相互に影響し合うものと説明されている。そのICFを活用し、指導の方向性や関係機関等との連携の在り方などを検討する。

◇引き継ぎ資料（就学前の個別の支援計画、相談支援ファイル等）を活用する。

### 【合理的配慮の合意形成】

○児童生徒・保護者と合理的配慮の具体的内容について、合意形成を図った上で決定し、その内容を個別の教育支援計画に明記する。

### 【支援の目標、内容及び担当機関の明確化】

- 支援の目標を設定する。
- 必要とされる支援について、学校や家庭、医療、保健、福祉、労働等の関係機関の役割と支援内容の調整を行う。
- 計画について保護者の同意を得る。

### 【支援の実施】

- 計画に基づき支援を行う。
- ◇学校では、個別の指導計画を作成して、具体的な指導及び支援を行う。

### 【評価】

- 支援の目標に基づき、成果・課題を明確にする。
- ◇関係機関の役割に応じて、評価の内容、時期、評価者を明確にしておく。（評価の時期は学校として適切に定めておく必要があるが、関係機関の支援期間や支援内容の変更等を踏まえて適宜評価し、その都度修正を加える。）

○…手順 ◇…留意事項

**Q8 個別の指導計画の作成のポイントは何ですか。**

A

個別の指導計画は、全教員の共通理解の下に、児童生徒の一人一人に応じた指導を一層進めるためのものであり、児童生徒の実態を踏まえ、各教科等の特質などを考慮し、保護者と連携し作成することが大切です。また、学級担任が一人で作成するのではなく、目標や指導方法等を校内委員会で検討するとともに、特別支援教育コーディネーターの助言を受けて作成することが必要です。作成後には、定期的に評価を行い、適宜、指導方法や内容を改善し、より効果的な指導を行うことが重要です。

**Q9 各計画の引き継ぎのポイントは何ですか。**

A

進級、進学や転学等により、学校や担当者が替わっても、それまでの指導や支援を引き継ぐ必要があります。そのため、児童生徒や保護者に対しては、学校における守秘義務等について十分に説明をし、不安感を取り除くとともに、支援を通じて信頼関係を構築し、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を活用することで、組織的計画的な支援が可能となることを理解してもらうことが大切です。また、各計画を活用して引き継ぎを行う場合には、児童生徒と保護者の同意を得る必要があります。

小学校から中学校へ、中学校から高等学校へ進学する際には、各計画を基に合理的配慮の内容、指導や支援の方法とその成果をできるだけ詳しく引き継ぐことが重要です。また、学校間連携の取組として、中学校区の小・中学校がお互いの授業を参観し合うなど、日頃からの連携が大切となります。

**Q10 特別支援学級において交流及び共同学習を促進するポイントは何ですか。**

A

特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習は、日常の様々な場面で活動を共にすることが可能であり、双方の担任同士が、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を活用しながら児童生徒の教育的ニーズを十分把握し、校内の協力体制の下、効果的な活動を設定することが大切です。

各計画を実効性のあるものにするためのツールの参考例を以下に示します。

特に、自立活動については、各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行わなければならないことに留意し、通常の学級の担任と指導内容・目標について共通理解を図っておくことが重要です。

小学校知的障害特別支援学級在籍児童のケース

年 組 本人氏名

自立活動の目標	交流及び共同学習における 通常の学級で学習する教科等	手立て
場面に応じた言葉の使い方を身に付け、自分から友達や教員へ話しかけることができる。	音楽、図画工作、体育、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す手順や言葉を示したカードを用意し、場面に応じて活用するように促す。</li> <li>・学習内容に応じたグループ編成をする。</li> <li>・図画工作と体育では、必要に応じて活動量を調整する。</li> </ul>

## 2 個別の教育支援計画と個別の指導計画の 様式例

個別の教育支援計画	10
個別の指導計画	11



作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【 学校】

学年・組		本人氏名	
学校生活の様子	うまくいっているところ  つまずいているところ		
短期目標 (期間：)			
手立て			
評価			
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	





### 3 個別の教育支援計画と個別の指導計画の 記入のポイント

個別の教育支援計画	14
個別の指導計画	15

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【 学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組			
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<p>○本人、保護者からの聞き取り、関係機関の情報、教員の見取り等により以下の内容を把握します。</p> <p>・学校生活 ・家庭生活 ・地域生活</p>			
	苦手なこと				
本人・保護者の願 望	本人	<p>○本人、保護者からの聞き取り等で把握します。</p> <p>○希望する進路や将来像についても把握します。</p>			
	保護者				
合理的配慮	<p>○合理的配慮の3観点11項目の中から本人及び保護者と合意形成を図った項目を記入します。</p> <p>○各項目の見出しは、例えば、「①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮」と記入します。</p> <p>○具体的な内容は、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」の別表（本冊子の資料として掲載）を参考に記入します。</p>				
長期目標 (期間： 年)	<p>○評価の時期（1～3年を目安に）は学校として適切に定めておき、評価日までに達成可能な目標を記入します。</p>				
関係機関との連携	<p>○関係機関名と支援内容を記入します。（担当：回数、支援内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉、医療（受診、服薬、診断名等）、労働等との連携がある場合は記入します。</li> <li>・通級による指導、地域とのかかわり（習い事、放課後活動）も含まれます。</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

年 月 日 保護者氏名

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【 学校】

学年・組		本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <p>○指導の有効な手がかりになるため、多く記述するようにします。          ・できていること ・頑張っていること ・得意なこと ・興味や関心</p> <p>つまづいているところ</p> <p>○気になる行動の実態や支援が必要と思われることを記述します。          ○「～できない」という記述は避けます。</p>		
短期目標 (期間：)	<p>○指導期間をあらかじめ決定しておき、評価日までに達成可能な指導目標を設定します。          (例：1年ごと、学期ごと)          ○「～しないようにする」等の表現は避け、「～できる」という文末にします。</p>		
手立て	<p>○「短期目標」に対応した手立てを記述します。          ○「学校生活の様子」の「うまくいっているところ」を活用して指導の手立てを設定します。          ・補助教材の活用 ・言葉かけの工夫 ・活動量の調整 ・時間の調整          等が考えられます。          ○誰がどの時間や場所で指導するのかも考えて手立てを設定します。</p>		
評価	<p>○評価の時期は学校として適切に定めておきます。          ○「短期目標」の達成状況について記入し、「指導目標」や「手立て」を見直します。</p>		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	



## 4 個別の教育支援計画と個別の指導計画の様式例

### (1) 通常の学級に在籍する児童生徒の記入例

#### ア 小・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒の記入例

自閉症<中学校1年生のケース> . . . . .	18
学習障害<小学校4年生のケース> . . . . .	20
注意欠陥多動性障害<小学校1年生のケース> . . . . .	22

#### イ 高等学校に在籍する生徒の記入例

自閉症<2年生のケース> . . . . .	24
学習障害<2年生のケース> . . . . .	26
注意欠陥多動性障害<1年生のケース> . . . . .	28

### (2) 小・中学校特別支援学級に在籍する児童生徒の記入例

知的障害<小学校4年生のケース> . . . . .	30
肢体不自由<小学校4年生のケース> . . . . .	32
病弱・身体虚弱<小学校6年生のケース> . . . . .	34
弱視<小学校3年生のケース> . . . . .	36
難聴<小学校4年生のケース> . . . . .	38
自閉症・情緒障害<小学校5年生のケース> . . . . .	40
自閉症・情緒障害<中学校2年生のケース> . . . . .	42

### (3) 特別支援学校に在籍する児童生徒の記入例

視覚障害<小学部1年生のケース> . . . . .	44
聴覚障害<中学部1年生のケース> . . . . .	46
知的障害<高等部1年生のケース> . . . . .	48
肢体不自由<高等部2年生のケース> . . . . .	50
病弱<中学部1年生のケース> . . . . .	52

<b>自閉症</b> <b>中学校 1 年生（通常の学級）のケース</b>
--

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【〇〇中学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	1年 ○組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書好きで、文章を読むことは得意である。</li> <li>・内容が分かり、少ない量であれば、課題や宿題に真面目に取り組むことができる。</li> <li>・自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとすることは少ないものの、仲の良い友達とは、昼休みに卓球を楽しむなどの関わりがある。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の形を整えて書くことや文章を考えながら書くことが苦手である。</li> <li>・特に時間割の変更など予期しないことや新しいことへの不安感が強く、過度なストレスを感じやすい。</li> <li>・休日などは、外出することがなく、家にいることが多い。</li> </ul>			
本人・保護者の 願 望	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを落ち着けて、学習活動に参加したい。</li> <li>・中学校卒業後の進路は具体的には未定であるが、公立高校へ進学したいと思っている。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人ができることを増やしてほしい。</li> <li>・友達と仲良く生活し、行事などの活動にも参加できるようになってほしい。</li> <li>・公立高校へ進学してほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容を掲示物等で示したり、変更に関することは色分けしたりして視覚的に分かりやすく提示する。</li> </ul> <p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動量を調整したり、本人が活動を選択する場面を設定したりして、意欲的に活動に取り組めるようにする。</li> <li>・本人の負担にならない程度にワークシートを使って書く量を減らす等、作業の量を調整する。</li> </ul> <p>①-2-2 学習機会や体験の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査等、集中できるように別室で受けられるようにする。</li> </ul> <p>①-2-3 心理面・健康面の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを落ち着けるためのクールダウンスペースを準備しておく。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを落ち着けて、学習活動に取り組む。</li> <li>・見通しをもって、体育大会や修学旅行等の行事に参加する。</li> </ul>				
関係機関との 連 携	特別支援教育巡回相談 (担当〇〇：年2回、進路指導の助言)				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

年 月 日 保護者氏名

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇中学校】

学年・組	1年 〇組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書好きで、文章を読むことは得意であり、国語の時間の初読が得意である。</li> <li>・授業中は手遊びしている様子も見受けられるが、大幅に授業から外れることはなく教員の指示を聞いて学習活動を進めることができる。</li> <li>・内容が分かり、少ない量であれば、課題や宿題に取り組むことができる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場の雰囲気を読み取るのが苦手で、会話が成立しないことがある。</li> <li>・集団のざわつきが苦手で、注意が逸れてしまうことがある。</li> <li>・特に時間割の変更など予期しないことや新しいことへの不安感が強く、過度なストレスを感じやすい。</li> <li>・集団場面などでは突然泣き出すことが見られる。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 クールダウンスペースの利用を自分から申し出て、気持ちを落ち着かせることができる。</li> <li>2 体育大会等の学校行事では、自分の出番に参加することができる。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過度なストレスが見られた際は、教員側からクールダウンスペースの活用を促す。</li> <li>・落ち着いた後、解決の方法等を話し合う。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の負担にならない程度に、練習の段階から参加できる場面を教員と事前に決めて参加できるようにする。</li> <li>・参加できた活動について振り返り、達成できたところを褒め、成就感を味わえるようにする。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は、教員から促され、クールダウンスペースに行っていた。クールダウンした後に、教員との話し合いの中で、自分で原因などを振り返ることができた。その状況の回避の仕方について、学ぶことができ、自分からクールダウンスペースの利用を伝えることができるようになってきた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育大会の合同練習において、最初は学年種目など学年単位での練習に参加した。全校合同の練習の前には、毎回、担任と話し合って参加する部分を決めて練習に参加した。体育大会当日には、開閉会式では一部参加であったものの、徒競走や応援合戦、ラジオ体操等の全校での活動には参加することができた。</li> </ul>		
作成者	学級担任： _____ 特別支援教育コーディネーター： _____		



## 個別の教育支援計画

【〇〇小学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	4年 ○組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習い事（水泳教室）は休まず通っている。</li> <li>・テレビアニメが好きで、詳しく知っている。</li> <li>・友達との関係は良好であり、休み時間には一緒に遊んでいる。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・字形が崩れやすく、板書に時間がかかる。</li> <li>・音読では、たどたどしい読み方をする。</li> </ul>			
本人・保護者の 願 望	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手く字が書けるようになりたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことを嫌がらずに取り組んでほしい。</li> <li>・音読ではすらすら読めるようになってほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1-2 学習内容の変更・調整                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の読む量や書く量を減らすなど負担にならない程度に調整する。</li> </ul> </li> <li>①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語のまとまりが分かりやすいように補助線を引いたり、文節ごとに区切ったりする。</li> </ul> </li> <li>②-1 専門性のある指導体制の整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導教室と連携し、指導の充実を図る。</li> </ul> </li> </ul>				
長期目標 (期間：1年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で学習する漢字の7割を書くことができる。</li> <li>・自分で工夫しながら、スムーズに音読できる。</li> </ul>				
関係機関との 連 携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇小学校通級指導教室（担当〇〇：週1回、個別の読み書きの指導）</li> <li>・水泳教室（担当〇〇：週1回、情報共有）</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇小学校】

学年・組	4年 〇組	本人 <sup>かりがな</sup> 氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育係では、係活動を忘れることなく、進んでうさぎ小屋の掃除をしている。</li> <li>・テレビアニメが好きで、休み時間などアニメのキャラクターを描いていることが多い。</li> <li>・課題には最後まで取り組み、宿題も忘れずにやってくる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を使わずに文章を書いている。</li> <li>・音読では、たどたどしい読み方をする。</li> </ul>		
短期目標 (期間:1年)	<p>1 漢字の小テストで7割以上書くことができる。</p> <p>2 補助線や文節ごとの区切りをもとに、声を出して文章を読むことができる。</p>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導教室で作成した「漢字ポイントカード(漢字を覚えるためのコツ)」を国語の授業でも活用して、漢字を書くようにする。</li> <li>・漢字の小テストでは、書き出し位置に印を付ける。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の単語に補助線を入れたり、文節ごとに区切ったりする。</li> <li>・声を出して文章を読んだときには、十分に称賛する。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導教室の教員と一緒に作ったイラスト入りの「漢字ポイントカード」を授業内で活用することにより、自分で考えたコツを思い出せるようになり、カードを見なくても正しく書ける漢字が増えてきた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を音読する前には、自分から補助線を引くようになった。補助線や文節ごとの区切りを手がかりにしたことによって、自信をもって音読することができるようになってきた。学校の取組を家庭へ伝え、保護者からも称賛されたことにより、家庭でも音読するようになってきた。</li> </ul>		
作成者	<p>学級担任： _____ 特別支援教育コーディネーター： _____</p>		

注意欠陥多動性障害  
小学校1年生（通常の学級）のケース

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【〇〇小学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	1年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動や体を動かす活動が好きである。</li> <li>・人と関わることが好きで、積極的に話しかけたりお手伝いをしたりすることができる。</li> <li>・放課後〇〇会の活動や地域の行事に進んで参加している。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の立ち歩きがある。</li> <li>・待つことや長い時間集中することが苦手である。</li> <li>・感情のコントロールが苦手である。</li> </ul>			
本人・保護者の 願い	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と仲良く遊びたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐ感情的にならずに話を聞けるようになってほしい。</li> <li>・落ち着いて行動できるようになってほしい。</li> <li>・同じ学年の友達と一緒に勉強したり遊んだりしてほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールや約束を視覚的に伝える。</li> </ul> <p>①-2-2 学習機会や体験の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなものと関連付け、興味・関心をもてるように学習内容を工夫したり、体を使った活動を取り入れたりする。</li> </ul> <p>①-2-3 心理面・健康面の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の受容的な雰囲気づくりをする。</li> <li>・必要に応じて休憩時間を設定する。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの授業で、最後まで学習に参加することができる。</li> <li>・感情のコントロールができ、友達と仲良く生活することができる。</li> </ul>				
関係機関との 連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇クリニック受診（〇〇医師：定期通院、学校や生活面での助言、服薬有り）</li> <li>・放課後〇〇会（担当〇〇：週2回利用、情報の共有）</li> <li>・特別支援教育巡回相談（担当〇〇：年2回、指導の手立ての助言）</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

年 月 日 保護者氏名

㊞

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇小学校】

学年・組	1年 〇組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話すことが得意なので、元気な声で発表することができる。</li> <li>・電車が好きで、友達と電車の話をしたり、図鑑を見たりしている。</li> <li>・朝マラソンを頑張っている。</li> </ul> <p>つまずいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語や算数の授業では、教室を立ち歩くことが多く、時に教室外に出ることがある。</li> <li>・友達と身体がぶつかったり、友達を不快にさせる言葉を発したりして、友達とトラブルになることがある。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業では、自分が決めた課題に取り組み、机上で学習できる。</li> <li>2 友達とけんかになった際、気持ちを落ち着け、自分の思いを言葉で伝えることができる。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に取り組む内容や順番を決めることができるようにする。</li> <li>・机の上に見える所に本人の活動の流れを掲示して、見通しがもてるようにする。</li> <li>・達成できたことを大いに称賛し、視覚的に確認できるようシールなどを活用する。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを落ち着かせる方法（深呼吸をする、目をつむる）を知らせ、自分に合う方法を習慣化できるようにする。</li> <li>・トラブルになった状況について振り返り、教員と一緒に適切な言葉を伝える場面を設定する。</li> <li>・1回でもできたことを称賛し、自信をもてるようにする。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を自分で決める場面を授業中に複数回設定することにより、集中して学習に取り組めるようになり、教室の外へ出ることはなくなった。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルになった時、深呼吸をして気持ちを落ち着けている場面が見られるようになった。また、どんなことを言ったのか自分で振り返り、どのような言葉が良かったのか教員と一緒に考えることができようになった。</li> </ul>		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	

自閉症  
高等学校2年生のケース

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【〇〇高等学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	2年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が好きである。</li> <li>・アニメ番組を視聴しており、せりふを記憶している。</li> <li>・定期試験では高得点を獲得する。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいことへの不安感があり、ストレスに感じることが多い。</li> <li>・物語の心情の読み取りや感想文が苦手である。</li> <li>・人前で発言することや発表することが苦手である。</li> </ul>			
本人・保護者の願 望	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親元から離れて生活したい。</li> <li>・就職したい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で生活するために、自分でできることを増やしてほしい。</li> <li>・就職して自立してほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを書く学習場面では、事実のみを記述できるようワークシートを工夫する。</li> </ul> <p>①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や大事な日程がある前日にメモを提示する。</li> </ul> <p>③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを落ち着けるための場所を確保する。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立に向けて、就労に必要な力を身に付ける。</li> <li>・多くの人と関わることができる。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援事業所〇〇 (担当〇〇：就労実習8月実施、情報共有)</li> <li>・〇〇病院 (〇〇医師：月1回通院、学校や生活面での助言、服薬有り)</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

年 月 日 保護者氏名

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇高等学校】

学年・組	2年 〇組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無遅刻・無欠席である。</li> <li>・物事に集中して取り組めるため、教科全般にわたって成績が良い。</li> <li>・「聞く」よりも「見る」ほうが情報が伝わる。</li> <li>・頼まれた仕事を指示通りに確実に行うことができる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶・返事が苦手である。</li> <li>・集団の中で孤立する場面が目立つ。</li> <li>・新しいことへの不安感が強く、ストレスを感じやすい。</li> <li>・自分の体調や気持ちを伝えずに我慢することがある。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の体調や気持ちを伝えることができる。</li> <li>2 挨拶する対象者を増やしたり、課題終了の報告をしたりすることができる。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔が赤くなる・肩が震える・うつむく等の状況が見られた場合、教員側から落ち着ける場所の活用を促す。落ち着ける場所はトイレ、ロッカー、ロビー、保健室の4箇所とする。</li> <li>・落ち着ける場所を活用後に担当者との面談し、今後の活用の仕方について話し合う時間を設ける。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶する対象者は赤いネームプレートを目印にする。少しずつ対象者の人数を増やしていく。</li> <li>・課題終了の報告を忘れないよう、視覚的に分かりやすい確認カードを用意する。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着ける場所の利用は4月から通算7回であった。うち3回は授業担当者に自分から申し出ることができた。「我慢した」ことが数回あったと自分から話せるようになった。また、「我慢できなかった」ため、突然教室から飛び出したことを反省している。</li> <li>・担当者との面談では緊張や不安の原因を記録し、振り返ることで自らの課題を確認することができた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶する人を分かりやすく記号化することで、迷わずに挨拶することができ、多くの教員と関わることができた。</li> <li>・課題終了後に報告ができるようになった。ただし、確認カードを使わないと終了の報告を忘れることが数回見られた。</li> </ul>		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	

## 個別の教育支援計画

【〇〇高等学校】

本人氏名 <small>ふりがな</small>		性別		生年月日	
保護者氏名 <small>ほごしゅしめい</small>		学年・組	2年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすことが好きであり、特にテニスが得意である。</li> <li>・時間を守って活動することができる。</li> <li>・友達と協力しながら積極的に活動に取り組むことができる。</li> <li>・家業のりんご栽培を手伝っている。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のページを指示しても周囲を確認してから行うことが多い。</li> <li>・音読では拗音の間違いが時々ある。</li> <li>・行を飛ばして読むことがある。</li> </ul>			
本人・保護者の願い	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後はりんごに関わる仕事をしたい。</li> <li>・集団の中で話せるようになりたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業について学べる上級学校に進学してほしい。</li> <li>・将来はりんご栽培を引き継いでほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ではワークシートを活用し、文字や計算の情報量を調整する。</li> <li>・次の授業の学習内容について板書する。</li> </ul> <p>②-1 専門性のある指導体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校等の外部専門家からの助言を生かし、指導の充実を図る。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン等を活用して自分を表現することができる。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育巡回相談 (担当〇〇：年2回、指導の手立ての助言)</li> <li>・書道教室 (担当〇〇〇：週1回、情報共有)。</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇高等学校】

学年・組	2年 〇組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻せず、毎日登校している。</li> <li>・休み時間や放課後を活用して教員と一緒に学習活動に取り組んでいる。</li> <li>・授業で分からないことや判断に悩むときは手を挙げて質問することができる。</li> <li>・清掃を丁寧に行うことができる。</li> <li>・テニス部に所属し、仲間と一緒に活動することができる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で挨拶することが苦手である。</li> <li>・板書に時間を要する。</li> <li>・自分の考えや気持ちを文章化することは苦手である。</li> </ul>		
短期目標 (期間:1年)	<p>1 授業の学習活動を確認しながら課題に取り組む。</p> <p>2 パソコンを活用し、文章を書くことができる。</p>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の流れを提示する。</li> <li>・教科書のページは常に板書し、進度を示す。</li> <li>・教科書を読むときは、苦手な発音がある所は事前にゆっくりと丁寧に読み聞かせる。</li> <li>・ワークシートはフォント、文字サイズを統一し、場合によっては薄く下書きや罫線を入れる。</li> <li>・電子辞書の活用を認める。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集中しやすい座席配置とする。</li> <li>・拗音や濁音、半濁音などのローマ字入力については板書する。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動を自分で確認することにより、発表が多くなり、課題にも取り組むようになってきた。</li> <li>音読をする場面では、手立てを教員で共通理解したことにより、どの教科においても音読するようになってきた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊音節の入力は、一つ一つ確認することによって、確実に入力することができるようになってきた。</li> </ul>		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	



注意欠陥多動性障害  
高等学校1年生のケース

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【〇〇高等学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	1年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動や身体を動かす活動が好きである。</li> <li>・人と関わることが好きで、積極的に話し掛けることができる。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理、整頓が苦手である。</li> <li>・長い時間集中することが苦手である。</li> <li>・感情のコントロールが苦手である。</li> </ul>			
本人・保護者の願 望	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校を卒業したい。</li> <li>・一般の企業に就職をしたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことは自分でできるようになってほしい。</li> <li>・物事に最後まで取り組んでほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を書く量やパソコンの入力する量を調整する。</li> </ul> <p>①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物を忘れないようメモ等の視覚情報を提供する。</li> </ul> <p>③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを落ち着けるための場所を確保する。</li> </ul>				
長期目標 (期間:3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを落ち着けて、学習活動に取り組む。</li> <li>・高校卒業後、一般企業に就職する。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇クリニック受診 (〇〇医師:定期通院、学校や生活面での助言、服薬あり)</li> <li>・〇〇会議 (担当:〇〇週1回、情報の共有)</li> <li>・特別支援教育巡回相談 (担当〇〇:年2回、指導の手だての助言)</li> </ul>				
作成者	学級担任:		特別支援教育コーディネーター:		

年 月 日 保護者氏名

㊞

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇高等学校】

学年・組	1年 〇組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン入力や調理活動など実技のある教科は集中して取り組むことができる。</li> <li>・身体を動かすことが好きで、体育や部活動に積極的に取り組むことができる。</li> <li>・一つのことを集中してやり遂げることができる。</li> <li>・言葉掛けをすると、次の行動に移ることができる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝坊による遅刻・欠席のため、学習の定着に時間がかかる。</li> <li>・気分がむらがあり、集中できる時間が短い。</li> <li>・課題に取り組むまでに時間がかかる。</li> <li>・指示されたことをすぐに忘れることがある。</li> <li>・提出物や課題等の書類を紛失することがある。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<p>1 課題に取り組み、完成させることができる。</p> <p>2 不安になったときに気持ちを落ち着かせることができる。</p>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の内容や作業の手順などを視覚的に提示し、生徒がいつでも確認できるようにすることで見通しをもてるようにする。</li> <li>・指示した課題量を時間内で完成できるよう言葉掛けを行い、達成できたことを称賛する。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちが落ち着くための方法を考え、自分に合う方法を習慣化できるようにする。</li> <li>・自分の行動について振り返る時間を設定し、何が良くなかったのか考えるように促して、どのように行動したら良いのかを確認する。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れを提示することで次の活動が分かり、集中できる時間が多くなった。</li> <li>・課題の量を調整することにより、平均して8割の達成が見られたが、状況によっては目標に達しないときもあった。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて学校生活を送ることが多く見られるようになった。</li> </ul>		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	

## 個別の教育支援計画

【〇〇小学校】

本人氏名 <small>ふりがな</small>		性別		生年月日	
保護者氏名 <small>ほごしやしめい</small>		学年・組	4年 ○組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも明るく、友達と会話をしている。</li> <li>・アニメのキャラクターの絵本が好きである。</li> <li>・漢字練習に取り組み、2年生までの漢字をおおよそ書くことができる。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おしゃべりは好きだが、上手く説明できなかつたり、聞き間違いがあつたりする。</li> <li>・マラソンは自分のペースでゆっくり走る。</li> <li>・計算が苦手で、10までの数は指を使って数える。</li> </ul>			
本人・保護者の願 望	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お友達と仲良く遊びたい。</li> <li>・跳び箱を跳べるようになりたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活で困らない程度の読み書きや計算ができるようになってほしい。</li> <li>・同年齢の子たちとたくさん関わってほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得意の漢字を生かしつつ、基礎的・基本的な数についての内容を重点化するなど学習内容の変更・調整を行う。</li> </ul> <p>①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数量の理解促進のため、カードや数え棒などの具体物やパソコンを活用する。</li> </ul> <p>①-2-3 心理・健康面への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力学級での友達関係を大事にし、グループ分けの配慮や活躍場面を設定する。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な学習（特に数の扱い）を身に付け、日常生活に生かすことができる。</li> <li>・友達や教員と関わりをもちながら元気に学校生活を送る。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童デイサービス〇〇（担当〇〇：週3日、情報の共有）</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		



肢体不自由教育  
小学校4年生（特別支援学級）のケース

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【〇〇小学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	4年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が好きであり、図書室から本を借りて読んでいる。</li> <li>・アイドルグループが好きで、協力学級の友達と話題にしている。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中しないと手拍子や行進を合わせることが難しい。</li> <li>・全体への指示が自分への指示でないと捉えることがある。</li> </ul>			
本人・保護者の願い	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強をもっと理解できるようになりたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でできることを増やしてほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片手での道具の操作ができるように補助机や道具を押さえるストッパー等を活用する。</li> </ul> <p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を書く量を調整する。</li> </ul> <p>②-3 災害時等の支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1階に教室を配置し、避難しやすい経路を確保する。</li> </ul> <p>③-1 校内環境のバリアフリー化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室を特別教室の近くに配置する。</li> <li>・多目的トイレを使用できるようにする。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左半身の緊張を自分で緩める運動の仕方を覚える。</li> <li>・学年相応の人との関わり方を身に付ける。</li> </ul>				
関係機関との連携	〇〇医療福祉センター（〇〇理学療法士：週1回の訓練、身体面の助言）				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

年 月 日 保護者氏名

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇小学校】

学年・組	4年 〇組	本人 <sup>ふりがな</sup> 氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ趣味の友達と会話を楽しむことができる。</li> <li>・自力で装具を身に付けることができる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容を理解していないことがある。</li> <li>・指示を理解していないことがあり、周囲の様子を見てから行動に移すことがある。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 腕が緊張したときに自分から気付いて、腕の曲げ伸ばしをすることができる。</li> <li>2 適切なコミュニケーションの方法を知り、人と関わるすることができる。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物を握ったり、離したりすることが難しくなった場合に、左腕の緩め方を指導する。</li> <li>・身体を使った活動をする前に左腕を緩めるように伝え、活動中は左腕が緊張していないか言葉掛けをする。</li> <li>・専門的な内容のため、専門機関と連携を図り、運動の仕方などを確認する。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や返事などを身に付けて自信をもてるようにする。</li> <li>・自分から話しかける相手を教員や特定の友達から広げていき、少数のグループや学級全体で発表する機会を設ける。</li> <li>・話しかけるときの手順や話し方をスモールステップで指導し、定着できるようにする。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左半身が緊張していると自分から左腕を動かす場面が多くなり、長い時間、集中して活動に取り組むことができるようになってきた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に話しかけるときは「ちょっと」や「あの」と呼びかけてから話すようになった。休み時間中、友達に依頼したり、質問したりすることが増えてきた。</li> </ul>		
作成者	学級担任： _____ 特別支援教育コーディネーター： _____		

## 個別の教育支援計画

【〇〇小学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	6年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なジャンルの本を読むこと。</li> <li>・集中して課題に取り組むことができる。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の問題が苦手である。</li> </ul>			
本人・保護者の願 望	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院後も以前と同じような学校生活を送りたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習が遅れないように勉強してほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服薬管理や環境調整、病状に応じた対応等ができるようにする。</li> </ul> <p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気により実施が困難な学習内容等について、主治医からの指導・助言や学校生活管理指導表に基づいた変更・調整をする。</li> <li>・実施が困難な実験などは、視聴覚機器を活用する。</li> </ul>				
長期目標 (期間：退院まで)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院後の転出に向け、体調管理に努め、遅れが出ないように学習する。</li> <li>・治療に対する不安を軽減して生活する。</li> </ul>				
関係機関との連携	<p>〇〇病院（〇〇医師、〇〇看護師：情報の共有）</p> <p>〇〇小学校（入院前の在籍校担任：前籍校での学習状況、情報の共有）</p>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇小学校】

学年・組	6年 〇組	本人 <sup>ふりがな</sup> 氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字は十分に定着している。</li> <li>・本を読むことが好きで、読解力がある。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点対称や線対称に苦手意識をもっている。</li> </ul>		
短期目標 (期間：退院まで)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 退院後の転出に向け、体調管理に努め、遅れが出ないように学習する。</li> <li>2 治療に対する不安を軽減して、生活する。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調を考慮し、授業内容を変更する。</li> <li>・ICT機器を活用し、実施困難な内容の理解を補助する。</li> <li>・学習進度に遅れが出ないように、前籍校と随時連絡をとり確認する。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の時間を活用し、入院生活や退院後の学校生活に対する不安を聞き取り、どのような対処方法や解決策があるかを整理し、不安を軽減する。</li> <li>・手紙の交換などを通して友達とのつながりを意識できるようにする。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習進度に遅れがでることなく進めることができた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院生活に対する不安を聞き取り、困った場面でどのようにすればよいかを一緒に考えたことで不安を軽減することができた。また、友達との手紙のやりとりを通して、退院して学校に行くことを楽しみにするようになり、リハビリや学習に取り組むことができた。</li> </ul>		
作成者	<p>学級担任： _____ 特別支援教育コーディネーター： _____</p>		



弱視  
小学校3年生（特別支援学級）のケース

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【〇〇小学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	3年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌を歌うことが好きである。</li> <li>・初めての物事にも意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面倒だなと思うと「分からない」と答えることがある。</li> <li>・集中できる時間が短い。</li> </ul>			
本人・保護者の願 望	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本を読めるようになりたい。</li> <li>・友達と買い物に行きたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活する力を身に付けてほしい。</li> <li>・基礎学力を身に付けてほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見えにくさを補うことができるように、視覚補助具の効果的な活用を促すための指導を行う。</li> </ul> <p>①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞くことで内容の理解につながる説明や資料、拡大コピーなど、見えにくさに応じた視覚的な情報の提供を行う。</li> </ul> <p>②-1 専門性のある指導体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校（視覚障害）のセンター的機能などによる専門的な助言を積極的に活用する。</li> <li>・眼科医のアドバイスを日常生活で必要な配慮に生かす。</li> </ul> <p>③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カーテンやスタンド等で採光の調整を行い、見えやすいように環境を整備する。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着を図る。</li> <li>・周囲の児童との関わりを通して、障害理解を図る。</li> </ul>				
関係機関との連携	<p>〇〇眼科医院（〇〇医師：定期通院） 特別支援教育巡回相談員（担当〇〇：指導の手立てや教材・教具の活用の助言）</p>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

年 月 日 保護者氏名

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇小学校】

学年・組	3年 〇組	本人 <sup>が</sup> 氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を覚えることが得意である。特に、筆順や画数クイズは全問正解することができる。</li> <li>単眼鏡を使って黒板の掲示物を見て答えようがんばることができる。</li> <li>市販のテストのように文字の小さなものであっても、はじめに少し読み聞かせたり、拡大したりすることにより一人で取り組めるようになっている。</li> <li>点字表で文字を確かめる活動にはとても意欲的である。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ルーペを使って見るのが苦手である。</li> <li>個別学習では、教員に対しての依存が強く、ヒントや答えを聞きたがることもある。</li> <li>友達との集団活動をすることが苦手である。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>上手に教具を活用して学習に意欲的に参加することができる。</li> <li>友達と一緒に当番活動をすることができる。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単眼鏡やタブレット端末を使って、黒板の板書や掲示物を見たり、実物を手で触ったりしながら学習を進めるようにする。</li> <li>板書は、タブレット端末で写してノート作成し、大切な部分をマーカーで印を付ける。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やり方や順序などを練習し、友達の手伝いをしながら一緒に活動する。</li> <li>号令に合わせて挨拶をする練習をする。</li> <li>分からないことがあるときには、友達の名前を呼んでから質問をして教えてもらう。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末の使い方にも慣れ、意欲的に学習を進めるようになった。板書はタブレット端末を活用して記録し、ノート作成に役立っている。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食当番では、牛乳を配ることができた。</li> <li>友達の声に合わせて一緒に挨拶ができるようになってきた。</li> </ul>		
作成者	学級担任： _____ 特別支援教育コーディネーター： _____		

**難聴**  
**小学校4年生（特別支援学級）のケース**

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【〇〇小学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	4年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を描くことが好きである。</li> <li>・菓子作りが好きである。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人前で話すことが苦手である。</li> <li>・運動することが苦手である。</li> </ul>			
本人・保護者の願 望	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と仲良くなりたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の生活を楽しんでほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞こえにくさを補うことができるように、補聴器等の効果的な活用をするための指導を行う。</li> </ul> <p>①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞こえにくさに応じた視覚的な情報の提供を行う。聞こえにくさに応じた聴覚的な情報・環境の提供を図る。</li> </ul> <p>①-2-2 学習機会や体験の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語経験が少ないことによる、体験と言葉の結びつきの弱さを補うための指導を行う。また、日常生活で必要とされる様々なルールや常識等の理解、あるいはそれに基づいた行動が困難な場合があるので、実際の場面を想定し、行動の在り方を考えることができるようにする。</li> </ul> <p>③-1 校内環境のバリアフリー化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放送等の音声情報を視覚的に受容することができる校内環境を整備する。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と適切なコミュニケーションができる。</li> <li>・聞こえないことによる危険の回避、対処ができる。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇病院耳鼻科（〇〇医師：6ヶ月に1回受診、生活面での助言）</li> <li>・特別支援教育巡回相談（担当〇〇：年2回、指導の手立ての助言）</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇小学校】

学年・組	4年 〇組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字練習や算数に熱心に取り組み、ほぼ理解している。</li> <li>集団行動ができる。</li> <li>体力づくりに積極的に取り組んでいる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本人の発音が不明瞭であり、コミュニケーションに支障が出てきている。</li> <li>補聴器の電池がなくなってもそのままにしていることがある。</li> <li>指示を聞き、落ち着いて行動できるが、集中が続かないことがある。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>正しい発音を身に付け、コミュニケーション能力を高める。</li> <li>正しく補聴器の取り扱いができる。</li> <li>日常生活での危険回避能力を身に付ける。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>口の形や舌の動きを練習しながら正しい発音の理解を深める。</li> <li>語彙を増やしたり、話し方の練習をしたりする。</li> <li>場所や状況に応じて聞き取れなかったときに自分から聞き直すことができるように、話し方の練習をする。</li> <li>友達と関わる機会を設定する。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電池がなくなったことに気付き、知らせることができるようにする。</li> <li>汗をかいたときに補聴器をふいたり、耳の周りを清潔にしたりする仕方を覚える。</li> </ul> <p>目標3について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常の生活音に留意できるようにする。</li> <li>危険な場所場面での環境音を聞き、それに応じた行動や対処方法を学習する。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発音が良くなってきたことや自分の言い間違いや相手の言葉の聞き逃しなどが減り、コミュニケーションが円滑に行われる場面が多くなってきた。</li> <li>聞き取れないときには、近くの友達や教員の支援を受けながら学習に取り組むことができた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時々補聴器を外してふくようになってきた。</li> </ul> <p>目標3について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遮断機の音や車の警笛に注意を向けられるようになってきた。草刈り機や避難訓練のサイレン音などの危ない音の理解については引き続き学習が必要である。</li> </ul>		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	

## 個別の教育支援計画

【〇〇小学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	5年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書することが好きで、知識は豊富である。</li> <li>・パソコンを使った学習が好きで、調べ学習やパソコン教材での学習に進んで取り組む。</li> <li>・リコーダー演奏が得意である。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送から流れるクラシック以外の音楽が苦手である。</li> <li>・長時間話を聞くことが苦手である。</li> <li>・みんなの前で話すことや、集団活動に参加することが苦手である。</li> <li>・肥満傾向のため、マラソンをすることが苦手で歩行もゆっくりである。</li> </ul>			
本人・保護者の願い	本人	・友達や教員に挨拶することをがんばりたい。			
	保護者	・自発的に人と関わることはあまり見られないが、周りの状況にも気付いてほしい。			
合理的配慮	①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮 ・視覚を活用した情報を提供したり、補助具を効果的に利用したりする。 ①-2-3 心理面・健康面の配慮 ・自己の特徴や対処法を理解し、不安感や孤独感を解消して自己肯定感を高めることができるようにする。				
長期目標 (期間：2年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からないことを質問することができる。</li> <li>・適切な人との関わりを身に付ける。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇病院（〇〇医師：定期通院、学校や生活面での助言）</li> <li>・デイサービス〇〇（担当〇〇：週2回）</li> <li>・相談支援専門員・デイサービス・保護者・学級担任の合同連絡会（長期休業毎に）</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇小学校】

学年・組	5年 〇組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>好きな本や図鑑を見ていると静かに過ごすことができる。</li> <li>図書委員会では忘れずに係活動を行い、好きなパソコン操作をしながら本の貸し出しや返却を行っている。</li> <li>理科や社会の学習では自分の経験に関連させて考えることができる。</li> </ul> <p>つまずいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放送等で音楽が流れると耳をふさぐため、動きが止まって作業ができなくなる。以前はイヤーマフを利用していたが、暑いなどの理由で装着しないことが増えている。</li> <li>勝ち負けにこだわり、負けそうになると感情のコントロールができなくなる。</li> <li>空想にふけっていたり、目を閉じて歩いたりしているため、話を聞いていないことや人にぶつかりそうになることがある。</li> <li>集団の中では緊張するために、適切な行動や場に応じた話し方が難しくなることがある。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>見通しをもちながら学習や活動に最後まで取り組むことができる。</li> <li>勝ち負けにこだわらずに、友達と仲良く遊ぶことができる。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習や活動内容を事前に知らせて、流れや終わりが分かるようにする。</li> <li>集団活動は、適切な行動や約束が視覚的に分かるツールを用意し、必要に応じて提示する。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>勝つこともあれば負けることもあることを確認してから活動する。</li> <li>負けたときの気持ちの表し方を知り、その場に合った表現ができるようにする。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習や活動の流れが分かると、落ち着いて参加することができた。</li> <li>活動時間が長くなると集中力が途切れてしまうことがあったため、定期的に行っていることを称賛することで最後まで参加することができた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前に「負けることもある」ことを確認しても、実際に負けると泣くことがあった。</li> <li>泣きながら自分からその場を離れてクールダウンして、数分で戻ってくることもあった。</li> </ul>		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	

## 個別の教育支援計画

【〇〇中学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学年・組	2年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漫画については、詳しく知っている。</li> <li>・決められたこと(校則・宿題・係活動など)は、忠実に守ることができる。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・負の計算や文字式が苦手である。</li> <li>・集団の雰囲気や指示の内容を理解しながら単独で行動することが難しく、しばしば不安を訴え、活動に参加することが難しいことがある。</li> <li>・自分の短所を自覚したり、失敗したりしたとき、自責の言動が見られる。</li> </ul>			
本人・保護者の願い	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを落ち着けて学校生活を送りたい。</li> <li>・中学校卒業後の進路は、公立高校への進学を希望している。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人ができることを増やしてほしい。</li> <li>・本人の負担にならない程度に、協力学級での共同及び交流学习の機会を設けて周囲との人間関係を学ばせたい。</li> <li>・公立高校へ進学してほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容を示したり、変更点はメモを渡したりして視覚的に分かりやすく提示する。</li> </ul> <p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の精神的負担にならないよう授業進度及び内容を調整する。</li> <li>・家庭学習で取り組む内容は本人の負担にならない程度にする。</li> </ul> <p>①-2-2 学習機会や体験の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査等、集中してできるよう別室で受けることができるようにする。</li> </ul> <p>①-2-3 心理面・健康面の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過度の緊張のため、休憩を申し出たときは許可する。</li> </ul> <p>②-2 児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本生徒の特性を理解してもらうために、周囲の生徒や教職員へ理解啓発の機会を設ける。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた環境で学習ができる。</li> <li>・行事などを通じて周囲との関わり合いを学び、集団活動に参加できる。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇病院（〇〇医師：定期通院 学校や生活面での助言、服薬有り）</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇中学校】

学年・組	2年 〇組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分からない課題であっても落ち着いて取り組むことができるようになってきている。</li> <li>・自責の言動が昨年より減少してきている。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安になったとき、自責の言動が見られ、立ち直るまでに時間がかかる。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	1 不安になったとき、自責の言動に至る前に自分の気持ちを言葉で表現できる。		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の感情を表現する学習の場面を設定する。</li> <li>・列に並ぶ場所は、集団の後方にする。</li> <li>・不安になったとき、いつでも気分転換できるよう一人になれる空間の確保や支援できるよう近くに教員がいる。</li> <li>・保護者の同意を得た上で必要があれば周囲の生徒へ本人の特性を伝える。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の感情を表現する言葉の学習に取り組んだ結果、周囲の行動についていけないことや強い不安を感じることを教員に伝えることができた。しかし、ごくまれに強い不安を覚えてしまい、集団から離れて気分転換の空間の確保が必要になる場合があった。今後も近くで支援できる教職員や集団から離れた場所の確保が必要である。</li> <li>・集団活動は、本人の不安解消のため、取組内容を事前に予告することで学習に取り組むことができた。</li> <li>・年度初めに協力学級の生徒へ本人の特性を伝えることで、同じグループの生徒は、受け入れる雰囲気を作り、本人生徒も一緒に活動に取り組むことができた。</li> </ul>		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	



## 個別の教育支援計画

【〇〇特別支援学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学部・学年・組	小学部 1年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同年齢の友達と遊ぶのを楽しみにしている。</li> <li>・慣れた場所では、伝い歩きで目的地まで移動できる。</li> <li>・余暇はDVD鑑賞をして過ごすことが好きである。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての活動に抵抗感を示し、意に反すると応答しないことがある。</li> <li>・援助依頼するまで時間がかかり、言葉掛けを待っていることが多い。</li> </ul>			
本人・保護者の願い	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字が読めるようになりたい。</li> <li>・いっぱい体を動かしたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字を少しでも多く覚えてほしい。</li> <li>・体力を向上させたい。</li> <li>・自分の意志をはっきりと伝えるようになってほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・触察（触って観察する）による読み取り時間を十分確保する。</li> </ul> <p>①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞くことで内容が理解できる音声CDやICT機器を活用する。</li> </ul> <p>①-2-2 学習機会や体験の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実物や模型に触る等の機会を多く設け、気付きにくい事柄や理解しにくい状況を説明する。</li> </ul> <p>①-2-3 心理面・健康面の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの状況が分かりやすい環境作りや自信をもって尋ねられる雰囲気作りをする。</li> <li>・学部の合同活動や交流及び共同学習を計画し、同年齢の児童と関わる機会を設定する。</li> </ul>				
長期目標 (期間:3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・触察、点字、歩行等の基本的な技術を身に付け、生活の中で生かすことができる。</li> <li>・自分の考えを相手に伝えたり、必要に応じて援助を求めたりすることができる。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇眼科受診（〇〇医師：定期通院）</li> <li>・〇〇病院小児科（〇〇医師：定期通院、服薬有り）</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【 ○○特別支援学校 】

学部・学年・組	小学部 1年 ○組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人と挨拶を交わすことができる。</li> <li>・点字学習に意欲的で、点字6文字（ア・イ・ニ・ナ・カ・メ）の弁別ができる。</li> <li>・伝い歩きで体育館やプレイルームへ自力移動できる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての人との関わりでは、緊張することがある。</li> <li>・意味を理解していない言葉を使って話していることがある。</li> <li>・自分から好きな遊びをすることはあまり見られないが、誘いには応じる。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学年相応の点字の読み書きができる。</li> <li>2 学習や集団活動の場面で、自分の気持ちや考えを発言できる。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢を正して両手読みの動作を行うようにし、行・行間のイメージを形成できるようにする。</li> <li>・前半マスと後ろ半マスの縦の棒や点のイメージを文字として読み取るようにする。</li> <li>・点字タイプライタのキーを押す指とそれによって書ける点との対応を確認するようにする。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的な活動を引き出すために、教室環境を整える。</li> <li>・体験的な活動を多く取り入れ、言葉や行動の意味が理解できるようにする。</li> <li>・発表の仕方や分からないときの伝え方を具体的に知らせ、様々な場面で体験を積めるようにする。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導では、他教科との関連を図りながら点字に関する読み書きの学習を重視することにより、清音の読み取りができるようになった。書きの学習においては、点字タイプライタを用いて簡単な文を書くことができるようになった。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会で発表する機会を設定し、発表の型を決め、「いつ・どこで・だれと・何を・どうした」の順に発表するようにしたことで、「昨日の出来事」を発表できるようになった。また、分からないときは「分からないです」と伝えることができるようになってきた。</li> </ul>		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	

聴覚障害 中学部1年生（特別支援学校）のケース
----------------------------

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【〇〇特別支援学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学部・学年・組		中学部 1年 〇組	
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動全般、特に格闘技を好む。</li> <li>・歴史が好きで、安土桃山時代から江戸時代までの武将をよく知っている。</li> <li>・料理が好きで、休みの日には家族の昼食を作ることもある。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学が苦手である。</li> <li>・英語の発音に苦慮している。</li> <li>・部屋の掃除や整理整頓が苦手である。</li> </ul>			
本人・保護者の願 望	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強を頑張りたい。</li> <li>・大学に進学して、会社に勤めたい。</li> <li>・運動してもっと体力を向上させたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な常識や学力を身に付けてほしい。</li> <li>・県立高校から大学へ進学させたい。</li> <li>・中学校との交流及び共同学習をさせたい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-1 学習上または生活上の困難を改善・克服するための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞こえにくさを補うために補聴器等の効果的な活用を促す。</li> <li>・聴覚を活用させ、円滑なコミュニケーションを図ることができるように、手話・指文字を状況に応じて用いる。</li> </ul> <p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験などにおけるヒアリング、聞き取り問題は、文字による代替問題を提示する。</li> </ul> <p>①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口元が見えるように座席の位置や話者の位置等に留意する。</li> <li>・視覚的に捉えやすい教材の活用や分かりやすい板書をする。</li> </ul> <p>②-1 専門性のある指導体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耳鼻科医、補聴器店から適切な助言や情報を得て活用する。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習や復習の習慣を身に付け、意欲的に学習をすることができる。</li> <li>・先輩や友達との関わり、身近な体験や事柄から社会性を広げる。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇補聴器 (担当〇〇：補聴器購入)</li> <li>・〇〇大学附属病院耳鼻咽喉科 (〇〇医師：6か月に1回定期通院)</li> <li>・〇〇市立〇〇中学校 (担当〇〇：居住地校交流、情報共有)</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

年 月 日 保護者氏名

㊞

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【 ○○特別支援学校 】

学部・学年・組	中学部 1年 ○組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決めたことや目標に向かって努力している。</li> <li>・体を動かしての遊びや運動をしている。</li> <li>・分からないことを先輩から教えてもらったり、友達と協力したりして活動することができる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手なことや自信がないことには消極的になる傾向がある。</li> <li>・準備や整理などをせず、即座に行動しようとすることが多い。</li> <li>・内容を理解できなくても教員に確認することなく、自分なりに解釈して済ませてしまう傾向がある。</li> </ul>		
短期目標 (期間: 1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学力の向上を目指し、予習や復習の仕方を身に付ける。</li> <li>2 物事を進めるときは友達と意見を出し合って協力し、苦手なことにも自ら取り組むことができるようになる。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習や復習の仕方を具体的に提示し、自分で学習できるようにする。</li> <li>・取り組みやすい学習の仕方や方法を一緒に考える。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースや身近な体験などを発表する機会を増やす。</li> <li>・交流及び共同学習をとおして体験や社会性を広げる。</li> <li>・周囲の生徒の発言を本人が理解しているか、また、本人の発言を周囲の生徒が理解しているか必要に応じて、確認する。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の仕方を教員に確認するとともに週ごとの計画を立てることにより、学習の定着につながっている。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から発表しようとする姿勢が多くなってきた。</li> <li>・交流及び共同学習で体験したことに関心を持ち、友達に話すようになった。</li> </ul>		
作成者	学級担任： _____ 特別支援教育コーディネーター： _____		

知的障害  
 高等部1年生（特別支援学校）のケース

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【〇〇特別支援学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学部・学年・組	高等部 1年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校ではバスケットボール部に所属した経験があり、運動、特に球技が好きである。</li> <li>・示範を見ることで活動内容を理解できる。</li> <li>・畑作業で天地返しや畝立てなどをしたり、電動工具を安全にを使って細かな作業をしたりすることができる。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文や会話では助詞の使い方が間違っていることがある。</li> <li>・お金や時間の計算が苦手である。</li> <li>・善悪の判断が不確実なときがあり、友達の影響を受けやすい。</li> <li>・家事の経験はほとんどなく、料理や洗濯、掃除など一人で行うのは苦手である。</li> </ul>			
本人・保護者の願い	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般就労したい。大工になりたい。</li> <li>・自分の給料で家族と一緒においしい物を食べたい。</li> <li>・車の運転がしたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般就労してほしい。</li> <li>・お金の管理ができるようになってほしい。</li> <li>・将来は親元を離れて暮らしてほしい。</li> <li>・善悪の判断ができるようになってほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読める漢字を増やすために、本人への配付資料はできるだけ漢字を使い、振り仮名を付けて配付する。</li> <li>・プリント学習だけでなく、実物を操作したり、ICT機器を使用したりして、理解促進を図る。</li> </ul> <p>①-2-2 学習機会や体験の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除機の使用やレトルト食品での調理など、一人でできる家事を多く経験する。定着を図るため、短期間に複数回設定する。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般就労に必要な力（態度や集中力、コミュニケーション力など）を身に付ける。</li> <li>・家事や社会生活に必要な事柄を一人でできるようになる。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後デイサービス〇〇（担当〇〇：水曜日利用、情報や手立ての共有）</li> <li>・相談支援事業所〇〇（担当〇〇：サービス利用計画、情報の共有）</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

年 月 日 保護者氏名

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇特別支援学校】

学部・学年・組	高等部 1年 〇組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物事を途中で諦めることなく、最後までやり遂げることができる。</li> <li>・誰に対しても分け隔てなく優しく声を掛けたり、活動に誘ったりすることができる。</li> <li>・教員からの急な依頼にも、快く引き受けることができる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達からの依頼を安請け合いしてしまうことがあり、保護者の許可なく物品のやりとりやお互いの自宅で遊ぶことがある。</li> <li>・理解できていなくても「はい。分かりました」と答えてしまうことがある。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 活動の報告を忘れずに行ったり、援助依頼ができるようになったりする。</li> <li>2 調理で使用する道具や器具の使い方を理解し、安全や衛生に気を付けて調理をすることができる。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示を出した後に、指示の内容を話してもらい、理解できているか確認する。理解できていないときは「分からなかったので、もう一度説明してください。」と言っていいことを伝え、促す。</li> <li>・働くために必要な力について具体的に教える。また、それぞれの力が備わっているか、自己評価や他者評価をして確認する。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で作った料理を家庭にも伝え、自宅でも作る機会を設定する。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・係活動や作業学習では、活動ごとに忘れずに報告することができた。また、産業現場等における実習の実習先評価を受けて、報告だけでなく「次は何をやればいいですか。」と答えることがきるようになった。</li> <li>・年度当初は説明の内容が理解できずに困っていることがあったが、困ったり分からなかったりしたときには、近くの教員に言葉で伝えることができるようになってきた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初はガスコンロや電子レンジの使用を怖がっていたが、慣れると一人でお湯を沸かしてカップラーメンやレトルトのカレーを作って食べるすることができた。調理後は、忘れずにガスの元栓を閉めるようになった。また、休日には自宅でも一人でカップラーメンを作ることが複数回あった。</li> </ul>		
作成者	学級担任： _____ 特別支援教育コーディネーター： _____		

## 個別の教育支援計画

【〇〇特別支援学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学部・学年・組	高等部 2年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子で30m程度移動することができる。</li> <li>・友達や教員と話をすることが好きで、特定のテレビゲームやアニメについて話題にしている。</li> <li>・学級内で司会や発表を率先して行うムードメーカーである。</li> <li>・平仮名や数字を読むことができる。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな話を繰り返すことで興奮し、興奮しすぎると発作を誘発することがある。</li> <li>・体幹を支える力が弱く、左側に崩れることが多い。</li> </ul>			
本人・保護者の願 望	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい学校生活にしたい。</li> <li>・新しいことに挑戦したい。</li> <li>・余暇を楽しみたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困った場面で具体的に依頼できるよう語彙を増やしてほしい。</li> <li>・生活していく上で、一人でできることが少しでも多くなればほしい。</li> <li>・働けるようになってほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左利き用のはさみや定規などの道具等を準備する。</li> </ul> <p>①-2-3 心理面・健康面の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疲労が蓄積したり興奮したりすると発作を起こすことがあるため、必要に応じて休憩時間や落ち着いて過ごせる時間を確保する。</li> </ul> <p>②-1 専門性のある指導体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士から身体の使い方や体操の仕方の助言を活用する。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して作業に取り組むことができる。</li> <li>・周囲の人と会話を楽しむことができる。</li> <li>・興味のあることを増やし、充実した余暇を過ごすことができる。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇クリニック（〇〇医師：定期的な通院、服薬有り）</li> <li>・〇〇医療福祉センター（〇〇理学療法士：週1回の訓練、身体面の助言）</li> <li>・〇〇デイサービス（担当〇〇：週3回、情報共有）</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇特別支援学校】

学 部・学 年・組	高等部 2年 〇組	ふりがな 本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度まで1人学級であったが、今年度、学級の仲間が増えて、楽しそうに関わっている様子が見られる。</li> <li>・興味のあることや伝えたいことを積極的に伝えようとする姿勢が多く見られる。</li> <li>・手指を使った作業活動は集中して取り組むことができる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙が少なく、なかなか友達に話している内容が伝わらないことがある。</li> <li>・作業活動中、報告することを忘れていたり、依頼することができなかつたりして活動が止まってしまうことがある。</li> <li>・作業をする活動では、姿勢が崩れることにより、はさみで切ったり、定規を使って線を引いたりすることが難しくなる。</li> </ul>		
短期目標 (期間:1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 様々な活動の中で自分から援助依頼や報告ができる。</li> <li>2 自分から姿勢を直し、両手を使った作業を継続することができる。</li> </ol>		
手 立 て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価シートを準備し、活動前に目標を確認できるようにする。また、活動後に自分で評価できるようにする。</li> <li>・自分から援助依頼や報告ができたときは称賛する。また、友達の様子から学ぶことができるよう、学級全体でお互いに認め合う機会を設定する。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢が崩れたら直すことを表示したカードを見える位置に置き、自分から気付くことができるようにする。</li> <li>・休憩時間は、体の緊張を緩和する運動をする。</li> </ul>		
評 価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の報告や依頼の様子を見ることから語彙が広がり、また、進んで報告しようとする姿勢が見られるようになってきた。</li> <li>・報告を忘れてしまうこともあるが、名前を呼ばれることで気付き、報告することができるようになってきた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初は、姿勢を直すことを表示したカードを教員が指し示していたが、次第に、自分から姿勢を直すことができるようになってきた。姿勢が崩れないようになってきたため、作業を継続して取り組むことができるようになってきた。</li> </ul>		
作 成 者	学級担任： _____ 特別支援教育コーディネーター： _____		



**病弱**  
**中学部 1 年生（特別支援学校）のケース**

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の教育支援計画

【〇〇特別支援学校】

本人氏名		性別		生年月日	
保護者氏名		学部・学年・組	中学部 1年 〇組		
住所	(TEL )				
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌が好きでクラスのお楽しみ会などで披露することができる。</li> <li>・美術や家庭科が好きで、積極的にアイデアを出し作品を作ることができる。</li> <li>・パソコンやタブレット端末の操作が得意で、必要な情報を調べることができる。</li> </ul>			
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事療法が必要であることは知っているが、栄養に関する知識不足や好き嫌いが多いため、偏った食事になりがちである。</li> <li>・視線が気になり、集団活動では不安になり気持ちが落ち着かなくなる。</li> <li>・活動量が多かったり、寝不足で疲れていたりすると、気持ちが不安定になる。</li> <li>・漢字への苦手意識が強く、平仮名で書くことが多い。書字に時間がかかる。</li> </ul>			
本人・保護者の願い	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスメイトに優しくしたい。</li> <li>・みんなと一緒に勉強したい。</li> <li>・将来は、介護の仕事をしたい。</li> </ul>			
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の状況に合わせた言動がとれるようになってほしい。</li> <li>・体調が良いときには、勉強に取り組んでほしい。</li> </ul>			
合理的配慮	<p>①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンやデジカメ等を活用し、書字の負担を軽減する。</li> <li>・食事内容表の活用により、自分の食事内容を振り返られるようにする。</li> </ul> <p>①-1-2 学習内容の変更・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動量を調整したり、本人が内容を選択する場面を設定したりして、意欲的に活動に取り組めるようにする。</li> <li>・ワークシートの活用により、書字や学習の量を調整する。</li> </ul> <p>①-2-3 心理面・健康面の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて休憩時間や落ち着けるスペースを設ける。</li> </ul>				
長期目標 (期間：3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体に合った食事内容を理解し、食事を適切に摂ることができる。</li> <li>・自分で工夫しながら、メモや写真などで大事なことを記録できるようにする。</li> <li>・対人関係スキルを身に付け、集団活動に参加することができる。</li> </ul>				
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇病院（〇〇医師、月1回定期通院、服薬あり）</li> <li>・放課後等デイサービス〇〇（担当：週2回利用、情報共有）</li> </ul>				
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：		

年 月 日 保護者氏名

作成日	年 月 日
評価日	年 月 日

## 個別の指導計画

【〇〇特別支援学校】

学部・学年・組	中学部 1年 〇組	本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手芸が好きで、作品を作ることにより気持ちが落ち着く。</li> <li>・美術、技術家庭科の制作活動など、自分からアイデアを出し積極的に取り組むことができる。</li> <li>・穴埋め式のプリントに意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・定時の薬を忘れずに飲むことができる。</li> </ul> <p>つまづいているところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外出した際の食事で、カロリーや油分の多い食事を制限なく食べてしまう。</li> <li>・記述する量が多いと、ノートに書き写すことをやめてしまう。</li> <li>・集団活動では気持ちが不安定になったり、感情的な言動になったりする。</li> </ul>		
短期目標 (期間：1年)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の体に合った食事内容が分かる。</li> <li>2 タブレット端末を活用し、ノートをまとめたり文章を書いたりすることができる。</li> <li>3 不安になったときに気持ちを落ち着かせることができる。</li> </ol>		
手立て	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携して毎日の献立を記録し、1週間ごとに食事内容を振り返るようにする。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書を撮影し手元で見て記述したり、家庭での学習に活用したりすることができるようにする。</li> <li>・長い文章は、ワープロソフトを使用し書字の負担を軽減する。</li> </ul> <p>目標3について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安な気持ちを落ち着かせる方法を教員と考え、自分に合う方法を試してみる。</li> <li>・個別に面談する機会を設けて困り感を聞き取り、集団場面での参加方法や目標を共有する。</li> </ul>		
評価	<p>目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭でのメニューについては、保護者にも確認してもらうことで正確に記述し、自分の体に合った食事内容になっているか定期的に振り返ることができた。</li> </ul> <p>目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記述が間に合わない場合は、板書を撮影し、画像を手元で確認したり、家庭学習でノートにまとめたりといった使い方ができるようになってきた。ワープロソフトを使うことで、作文や日誌などの文章を書くことに意欲的に取り組むことができた。</li> </ul> <p>目標3について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安になったときに、10秒数える方法を試した。10秒数えることで、感情的に友達に話すことが減った。不安が強いときには、保健室へ行き、養護教諭に促されて頓服薬を服用することができるようになった。また、昼休みに手芸を行うことで、気持ちを切り替え、午後の学習に取り組めることが増えた。集団での行事は依然として苦手意識があるものの、会場の後ろに座って参加することができるようになってきた。</li> </ul>		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	



## 5 資 料

### 相談支援ファイルの記入例

# 相談支援ファイル

— 記入例 —



元気(げんき)くん



未来(みく)ちゃん

青森県教育委員会

## 記入例の使い方

この相談支援ファイル（試案）「記入例」は、ご本人や保護者並びに関係機関のみなさまが相談支援ファイルを記入する際に、参考としていただくものです。

## 記入例の見方

○記入例は、手書きで示しています。

○各ページでは、それぞれ異なる事例を記入例として示しています。

このファイルの内容は、すべて大切なものです。許可なく他者が見ることがないように、保管には十分注意してください。

関係機関において活用する場合でも、個人情報としての取扱いに十分留意してください。



この相談支援ファイルに掲載されている元気（げんき）くんと未来（みく）ちゃんのイラストは、青森県立黒石商業高等学校情報デザイン科のみなさんが製作したものです。

## 相談支援ファイルの内容

- プロフィール 1・・・ご本人のことについて記録するページです。
- プロフィール 2・・・保護者や家族について記録するページです。
- 緊急連絡先・・・緊急時の連絡先を記録するページです。
- かかりつけの医療機関・・・かかりつけ医を記録するページです。
- 成長の記録 1・・・出産時から乳児期のことを記録するページです。
- 成長の記録 2・・・既往歴や健診結果を記録するページです。
- 受診歴・・・これまでの受診歴を記録するページです。
- お医者さんの記録・・・受診時の治療やお医者さんの大切な助言等を記録するページです。
- 医療機関で実施した検査結果の概要・・・病院で実施した検査結果の概要を記録するページです。
- 相談歴・・・これまでの相談機関での相談歴を記録するページです。
- 相談の記録・・・相談機関での相談内容や大切な助言等を記録するページです。
- 相談機関で実施した検査結果の概要・・・相談機関で実施した検査結果の概要を記録するページです。
- 福祉サービスの記録・・・利用している福祉サービスについて記録するページです。
- 教育の記録・・・保育所(園)や幼稚園、小・中学校等での様子等を記録するページです。
- サポーター一覧・・・あなたをサポートする機関等名を記録するページです。



相談支援ファイルに関するお問い合わせは、  
こちらへお願いします。

青森県教育庁学校教育課特別支援教育推進室  
TEL 017-734-9882

プロフィール1

作成日 H24年 4月 2日  
 記入者 ( 母 )

ふりがな	あおもり たろう		
氏名	青森太郎		
生年月日	平成16年12月12日生まれ	性別	<input checked="" type="radio"/> 男 ・ 女
住所	〒030-1234 青森市銀座一丁目12-34		
好きなこと 得意なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃのカタログ</li> <li>・パズル</li> <li>・車(ミニカー、パトカー等)</li> <li>・汽車(新幹線、蒸気機関車)…H20.12</li> <li>・ブロック</li> <li>・DVD(ア=メ)…H21.6</li> </ul>		
苦手なこと いやなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除機の音</li> <li>・文字や数字を書くこと</li> </ul>		
幼稚園 保育園(所) 学校	幼稚園・保育所(園)・学校名	友だち保育園	
	入園(学)月日	H19年 4月 1日	
	年 月 日	年 まく 組 (担任 ハナ 例子)	
	幼稚園・保育所(園)・学校名	なかよし幼稚園	
入園(学)月日	H20年 9月 1日		
年 月 日	年 ほし 組 (担任 弘前 例美)		
幼稚園・保育所(園)・学校名	幼稚園・保育所(園)・学校名		
入園(学)月日	年 月 日		
年 月 日	年 組 (担任 )		

いつも遊んでいるおもちゃや好きなテレビ番組・ビデオ・本、音楽等を記入してください。

追加、修正して記入していても構いません。最後に記入年月日を付しておくのもいいですね。

嫌いな音や苦手な活動・場所等を記入してください。



アレルギーの有無	<p><b>有り…えびアレルギー</b></p> <p>食物アレルギー（そばなど）、動物アレルギー（猫等）、花粉症等、お医者さんの診断を受けたことのあるものを記入してください。</p>
常用薬	<p><b>コンサ-7(7:00)</b></p> <p>毎日、定期的に服用している薬の名前と服薬時間を記入してください。</p>
持っている手帳等	<p>身体障害者手帳 有・無（等級 種 級）                  愛護手帳 <input checked="" type="radio"/>有・無（区分 <input checked="" type="radio"/>A・B）                  精神障害者保健福祉手帳 有・無（等級 1級・2級・3級）                  障害福祉サービス受給者証 有・<input checked="" type="radio"/>無</p>
病気・障害名	<p><b>知的障害</b></p>

わたしのねがい

○こはばでやりとりができるようになってほしい。(H24.4.2父)

○パイロットになりたい。(H24.4.20本人)

\* 記入した年月日も書きましょう。

追加、修正して記入していった構いません。



プロフィール2

保 護 者	ふりがな	あおむり けんたろう		続 柄	
	氏 名	青森 県太郎		父	
	住 所	〒	子どもと同じ		
		〒			
連 絡 先	自宅電話番号	017 (123) 4567			
	携帯電話番号	123 (456) 6789			
わ た し の 家 族	続 柄	氏 名	生年月日	備考(勤務先、学校名など)	
	父	青森県太郎	S.48.5.3	会社員(しあわせ工業)	
	母	青森花子	S.50.1.21	パート(マスコリスーパー)	
	本人	青森太郎	H.16.12.12	なかよし幼稚園年長組	
	祖母	青森桜子	S.28.2.26	会社役員(新鮮水産)	



緊急連絡先

【青森県教育委員会 H24作成】

連絡する 順番	氏名	続柄	連絡先
No.1	青森花子	母	自宅電話番号 017(123)4567
			携帯電話番号 090(555)3210
			勤務先名 ヤスウリス-パ-
			勤務先電話番号 017(765)4321
No.2	青森昇太郎	父	自宅電話番号 017(123)4567
			携帯電話番号 123(456)6789
			勤務先名 しあわせ工業
			勤務先電話番号 017(414)4141
No.3	青森桜子	祖母	自宅電話番号 017(123)4567
			携帯電話番号 090(777)8888
			勤務先名 新鮮水産
			勤務先電話番号 017(321)0141

緊急時、確実に連絡のとれる方  
と連絡先を記入してください。



【緊急連絡先】

かかりつけの医療機関

医療機関名	受診診療科	受診期間	担当の医師等名	連絡先
良久鳴医院	耳鼻科	H17年6月 ～ H18年1月	良久鳴久美	090(22)6666
青森医療療育センター	整形外科	H18年10月 ～ 年 月	高橋次郎	0997(33)5555
ニとも医院	小児科	2年11月	医師丸下郎	0995(88)9999
	科	～ 年 月		
	科	年 月 ～ 年 月		
	科	年 月 ～ 年 月		
	科	年 月 ～ 年 月		
	科	年 月 ～ 年 月		
	科	年 月 ～ 年 月		
	科	年 月 ～ 年 月		

幼い頃から通っている病院の名前とお医者さんの名前等を記入してください。複数ある場合は、複数記入してください。

成長の記録1

【青森県教育委員会 H24作成】

作成日 24年 4月 2日

記入者 (青森花子)

記入にあたっては、母子手帳などの記載内容を転記したり、コピーしてはり付けたりしてもかまいません。

<出産の状態>

妊娠期間	妊 娠 40 週		
娩(へん) 出日時	H16年 12月 12日 午前(午後) 3時 56分		
分娩(へん) の経過 (母児の状態)	頭位 特記事項	骨盤位	その他 ( )
分娩(へん) 所要時間	5時間52分	出血量	少量(中量)多量 ( ml )
出産時の児の状態	性別・数	男・女・不明 : 単・多 ( 胎 )	
	計測値	体重	2928 g 身長 49.5 cm
		胸囲	31.0 cm 頭囲 32.0 cm
特別な所見・処置			
出産の場所 名称	八森 市民病院		
分娩(へん) 取扱者 氏 名	医師	佐藤 五郎	その他
	助産師	佐々木 丸子	

<発達経過>

離乳食	( 月 ~ 月 )	量	(多)・普通・少
首のすわり	歳 3 か月頃	寝返り	歳 6 か月頃
おすわり	歳 7 か月頃	はいはい	歳 9 か月頃
つかまり立ち	歳 月 頃	後追い	歳 月 頃
つたい歩き	1 歳 0 か月頃	バイバイ、コンニチハなどの身振り	歳 月 頃
ひとり歩き	1 歳 3 か月頃	ママ、プープーなどの意味のある言葉	1 歳 6 か月頃
大人の身振りのまね	歳 月 頃	二語文(ワンワンキタ、)	歳 月 頃
階段昇り	1 歳 8 か月頃	思い出せなかったり、よくわからなかったりする事項は記入しなくてもいいです。	
排泄自立(小)	1 歳 9 か月頃	排泄自立(大)	歳 月 頃

<特記事項>

偏食	やさしい、すの物、くだものが苦手
感覚に関すること	飛行機の音が苦手。暑がり
その他	音のいせなことを思いたすと、情緒が不安定になる。寝る。

## 成長の記録2

## 既往歴

	いつ頃	かかった病気
これまでにかかった病気	H17年2月頃	水痘
	H18年5月頃	おたふくかぜ
	年 月 日頃	
	年 月 日頃	
	年 月 日頃	
その他の必要な事柄		

これまでにかかったことのある病気で、現在は治癒しているものを記入してください。

## 健診記録

健診の記録	実施月日	助言されたこと
3か月児健診	H17年3月18日	特になし
1歳6か月児健診	H18年6月20日	こたほの遅れが気になった。育児教室を紹介された。
3歳児健診	H20年1月21日	児童相談所の精検を勧められた。
5歳児健診	<del>年 月 日</del>	
就学時健診	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	

受診歴

年 月 日	医療機関名	定期 ・ 不定期 (〇で囲んで ください。)	受診の内容 (〇で囲んで ください。)	記録 の 有無
H17年6月5日	機関名 良久鳥医院 担当者 良久鳥 久美	定期 ・ <input checked="" type="radio"/> 不定期	診察・ <input checked="" type="radio"/> 治療 検査・訓練 その他 ( )	有 <input checked="" type="radio"/> 無
H18年10月5日	機関名 青森医療療育センター 担当者 高橋医師	<input checked="" type="radio"/> 定期 ・ 不定期	<input checked="" type="radio"/> 診察・治療 検査・訓練 その他 ( )	有 <input checked="" type="radio"/> 無
H23年11月26日	機関名 ニセト医院 担当者 医師丸太郎	<input checked="" type="radio"/> 定期 ・ 不定期	<input checked="" type="radio"/> 診察・治療 検査・訓練 その他 ( )	有 <input checked="" type="radio"/> 無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	診察・治療 検査・訓練 その他 ( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	診察・治療 検査・訓練 その他 ( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	診察・治療 検査・訓練 その他 ( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	診察・治療 検査・訓練 その他 ( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	診察・治療 検査・訓練 その他 ( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	診察・治療 検査・訓練 その他 ( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	診察・治療 検査・訓練 その他 ( )	有・無

相談支援ファイルの中に記録として残しているかどうかを記入してください。

お医者さんの記録

医療機関名	青森・医療療育センター 電話番号 017 (890) 1112	定期・不定期 (〇で囲んでください。)
お医者さんの名前	高橋 医師	治療や服薬、訓練等のために病院等に通院している内容を書きます。

2019年10月5日 受診科 (整形外科) 記入者 (母)	(受診の理由) ・1歳6ヶ月健診で歩くのが遅いと言われた。 (お医者さんが言ったこと) ・脳性まひではないか。 ・センターで歩行の練習をおよぶ勧められた。 (処方薬内容) ..... (実際に行った治療や訓練等) .....
年 月 日 受診科 ( ) 記入者 ( )	(受診の理由) ..... (お医者さんが言ったこと) ..... (処方薬内容) ..... (実際に行った治療や訓練等) .....
年 月 日 受診科 ( ) 記入者 ( )	(受診の理由) ..... (お医者さんが言ったこと) ..... (処方薬内容) ..... (実際に行った治療や訓練等) .....



お医者さんの記録

医療機関名	こども医院 電話番号 0795 ( 88 ) 9999	<input checked="" type="radio"/> 定期 <input type="radio"/> 不定期 (〇で囲んでください。)
お医者さんの名前	医師丸 太郎	

H23年 11月 26日	(受診の理由) 夜尿。 学校で落ち着きがない。
受診科 (小児科)	(お医者さんが言ったこと) お薬の薬が出た。 学校での様子を連絡してほしいと言われた。服薬について検査ができた。
記入者 (母)	(処方薬内容) トフラニール錠 夜2錠 (実際に行った治療や訓練等)
H24年 2月 1日	(受診の理由) 学校で落ち着きがないことを伝える。
受診科 (小児科)	(お医者さんが言ったこと) 学校での様子を聞かれた。 薬を試してみてもどうかと言われた。
記入者 (母)	(処方薬内容) リスパタール (実際に行った治療や訓練等)
年 月 日	(受診の理由)
受診科 ( )	(お医者さんが言ったこと)
記入者 ( )	(処方薬内容)
	(実際に行った治療や訓練等)

## 医療機関で実施した検査結果の概要

検査名	実施月日	検査を行った機関 (検査者名)	概要
田中ヒュー	H20年4月8日	八甲田児童相談所 (山田)	年齢に比べ、1歳半程度 の遅れが見られる。
WISC-IV	H24年2月29日	大木名病院 (臨床心理士佐藤)	言語性と動作性の結果に 大きな差が見られた。
	年 月 日	( )	
	年 月 日	( )	
	年 月 日	( )	
	年 月 日	( )	
	年 月 日	( )	

\* 検査は、各種知能検査や発達検査のほか、聴力検査、視力検査などを指します。

関係機関では、記入を依頼する内容により、お知らせできないものがあります。



相談歴

年 月 日	相談機関名	定期 ・ 不定期 (○で囲んで ください。)	相談の内容 (○で囲んで ください。)	記録 の 有無
H19年2月26日	機関名 八森市障害福祉課 担当者 八甲田 山男	定期 ・ <input checked="" type="radio"/> 不定期	検査・訓練・療育・就学 生活・学習・進路・就労 その他(手帳)に付	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
H21年5月30日	機関名 八森第一養護学校 担当者 陸奥 湾子	<input checked="" type="radio"/> 定期 ・ 不定期	検査・訓練・療育・就学 生活・学習・進路・就労	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	検査・訓練・療育・就学 生活・学習・進路・就労 その他( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	検査・訓練・療育・就学 生活・学習・進路・就労 その他( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	検査・訓練・療育・就学 生活・学習・進路・就労 その他( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	検査・訓練・療育・就学 生活・学習・進路・就労 その他( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	検査・訓練・療育・就学 生活・学習・進路・就労 その他( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	検査・訓練・療育・就学 生活・学習・進路・就労 その他( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	検査・訓練・療育・就学 生活・学習・進路・就労 その他( )	有・無
年 月 日	機関名 担当者	定期 ・ 不定期	検査・訓練・療育・就学 生活・学習・進路・就労 その他( )	有・無

相談支援ファイルの中に記録として残しているかどうかを記入してください。

相談の記録

相談機関名	八森市障害福祉課 電話番号 015 (777) 1111	定期・ <b>不定期</b> (〇で囲んでください。)
担当者名	八甲田 山男	

H19年 2月26日  記入者 ( 母 )	(相談したこと) ・身障者手帳の取得方法  (担当者が話したこと) 担当者 八甲田 ・取得に必要な書類が あり、記入に 提出す。 了解がもらえれば、相談先の担当者 者に書いてもらってもいいです。
年 月 日  記入者 ( )	(相談したこと)  (担当者が話したこと) 担当者 _____
年 月 日  記入者 ( )	(相談したこと)  (担当者が話したこと) 担当者 _____
年 月 日  記入者 ( )	(相談したこと)  (担当者が話したこと) 担当者 _____

相談の記録

【青森県教育委員会 H24作成】

相談機関名	八森第一養護学校 電話番号 015 (888) 2222	<input checked="" type="radio"/> 定期・不定期 (〇で囲んでください。)
担当者名	陸奥 鴻子	

H24年 5月 30日  記入者 (下北 三部)	(相談したこと) ・特別支援学校に就学おぼけの流しん。  (担当者が話したこと) 担当者 下北 三部 ・学校から決りおぼけの手順の説明と就学に関する相談機関を説明し=。
H24年 9月 30日  記入者 (陸奥 鴻子)	(相談したこと) ・特別支援学校の学習について  (担当者が話したこと) 担当者 陸奥 ・本校の授業の見学をし=あと、学習内容について説明し=。
年 月 日  記入者 ( )	(相談したこと)  (担当者が話したこと) 担当者

相談機関で実施した検査結果の概要

検査名	実施月日	検査を行った機関 (検査者名)	概要
K-ABC	H23年7月2日	サオウセンター ほし (大崎)	経時処理に比べ、同時処理が 苦手という結果であった。聴覚的 支援を校舎とみから、合わせて視 覚トレーニングを行う。
新版S-M社会生活 能力検査	H23年8月3日	八戸養護学校 (母親)	全体的に6ヶ月程度の遅 れが見られた。
	年 月 日	( )	
	年 月 日	( )	
	年 月 日	( )	
	年 月 日	( )	
	年 月 日	( )	

\* 検査は、各種知能検査や発達検査のほか、聴力検査、視力検査などを指します。

関係機関では、記入を依頼する内容により、お知らせできないものがあります。



福祉サービスの記録

【青森県教育委員会 H24作成】

<p>H24年 4月4日 記入者( 福祉真子 )</p>	
福祉等機関名 (担当者名)	ふくし園 (福祉真子)
利用曜日	毎日 ・ 週 2回 (月・水 曜日) ・ 不定期
利用開始年月日	H19年 4月9日
サービス種別名 (デイサービス・ 就労移行等)	ホームヘルプ・ <u>児童発達支援事業</u> 放課後等デイサービス 行動援護・ショートステイ・生活介護・自立訓練・就労移行支援 就労継続支援・グループホーム・移送サービス その他 ( )
サービスの内容	・放課後、施設で余暇と過ごしている。

<p>年 月 日 記入者 ( )</p>	
福祉等機関名 (担当者名)	
利用曜日	毎日 ・ 週 回 ( 曜日) ・ 不定期
利用開始年月日	年 月 日
サービス種別名 (デイサービス・ 就労移行等)	ホームヘルプ・児童発達支援事業・放課後等デイサービス 行動援護・ショートステイ・生活介護・自立訓練・就労移行支援 就労継続支援・グループホーム・移送サービス その他 ( )
サービスの内容	

教育の記録

記入日 平成21年3月20日 記入者 (杉嶋菜子)  
 追加・訂正 平成22年3月15日 記入者 (七戸新子)  
 追加・訂正 平成 年 月 日 記入者 ( )

幼稚園名 保育園(所)名	ハ森 幼稚園	
通園状況	たんぽぽ組 ( 4 歳)	担任氏名 杉嶋菜子
	在園期間 H20年4月1日~H22年3月31日	

身体の様子 体力・健康	(平成 年 5月 1 日測定) 身長110cm 体重 27kg
----------------	---------------------------------

項目	できること (工夫していること)	苦手なこと (配慮していること)
生活動作 食事・トイレ・ 着替えなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>声かけにおし、箸を使って大皿を食べることが出来る。</li> <li>フラスターを一人でできるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人で食器の後片付けができるように徐々に声をかける回数を減らしている。</li> <li>うがいをする。</li> </ul>
感情・性格 気持ちのコントロール 性格の特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌やダンスが得意である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「もとやりたい」という気持ちを泣いて表現するので、要求カードを使っている。</li> </ul>
行動 目立った行動など	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな活動にも、興味をもって意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動中に夢中になり、次の活動への準備が難しい時は、タイマーや次の活動カードを使うように指導した。タイムタイマーの使用が効果的だった。</li> </ul>
社会性 コミュニケーション の理解など	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物・色等の名称を指して言うことができる。</li> <li>ほしい物を言葉で話すことが増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体の名前(頭、おなか、足など)を指さして言うことがある。</li> <li>遊びの順番が守れている。</li> </ul>
その他 行動全般など	<ul style="list-style-type: none"> <li>りんごを一人でできることが増えた。</li> <li>好きな保育士の名前を呼ぶようになった。</li> <li>遊んでくれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団での活動ができるように、集団の大きさを徐々に広げ、活動しやすいように配慮した。</li> </ul>

お子さんの様子に変化がありましたら、追加、訂正していきましょう。

幼稚園・保育園(所)の先生へ：保護者の方から園でのお子さんの様子についての記入依頼がありましたら、お手数ですが、ご協力をお願いします。上記の表への記入のほか、保護者の了解の上、「個別の指導計画」等の写しを添付するなどをご考慮ください



教育の記録

記入日 平成24年4月2日

記入者(下北次郎)

学校名	青森県立青森養護学校	担任氏名	下北次郎
(小) 中高 2年 組	特別支援学級 (知的・言語・難聴・自情・病弱・肢体・弱視) 通級指導教室 ( 学校 担当者氏名 )		

	教科等名	活動の様子や配慮していること
学習活動	日常生活の指導	係活動は、廊下そうじ係だった。廊下に貼ったカーテフと手がかりに丁寧に掃きそうじをすることができた。
	生活単元学習	校外学習では、お金の支払い方、切符の買い方、自動改札機の通り方を事前に学習したことで、当日も落ち着いて行動できた。
	作業学習	スコップを使って、目印に沿って、畑にますぐな畝を立てることができた。
	国語	漢字練習に一生懸命取り組んだ。感想文では自分の気持ちを入れ文章と書くことができた。
	数学	かけ算とわり算を正確に計算することができた。
	音楽	歌唱では、教師がおなかに手を当てることで、腹式呼吸を意識しながら発声練習をすることができた。
	美術	運動会の絵では、顔の向きや手の動きなどを丁寧に描くことができた。
	保健体育	サッカーゲームの簡単なルールを覚え、ゲームをした。10分間の試合中に3回ゴールすることができた。

その他の活動	係活動	
	行事	運動会のアナウンス係として、競技名や内容をアナウンスした。
	委員会	
	部活動	

年度ごとに1枚記入していきましょう。

休み時間の過ごし方	体育館でクラスメイト2,3名と一緒にトランポリンをして楽しんでいた。
-----------	------------------------------------

他者との関わり	自分から積極的に声をかけて話すことが増えた。
---------	------------------------

その他	宿題を忘れたら毎日行うことができた。
-----	--------------------

学校の先生へ：保護者の方から学校でのお子さんの様子についての記入依頼がありましたら、お手数ですが、ご協力をお願いします。上記の表への記入のほか、保護者の了解の上、「個別の指導計画」等の写しを添付するなどご考慮ください。

# みんなで応援します！

作成日 H24年 4月 2日  
記入者 ( 母 )



## \* 記載項目

- 1 機関名
- 2 担当者
- 3 電話番号
- 4 主な役割

- 1 こども医院
- 2 医師丸太郎
- 3 080-999-7777
- 4 主治医

- 1 サポートセンター福祉
- 2 福祉 真子
- 3 090-999-8888
- 4 福祉サービス

- 1 青森市障害福祉課
- 2 ハ甲田山男
- 3 017-351-1111
- 4 保健・福祉

氏名 青森太郎

- 1 青森児童相談所
- 2 津軽新五郎
- 3 080-555-6666
- 4 福祉

- 1
- 2
- 3
- 4

- 1
- 2
- 3

サポーターを随時、追加、訂正  
していきましょう。



## 5 資 料

### 学校における「合理的配慮」の観点

（「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」より引用）

別表1 合理的配慮の観点①「教育内容・方法」①-1 教育内容

①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	
障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するため、また、個性や障害の特性に応じて、その持てる力を高めるため、必要な知識、技能、態度、習慣を身に付けられるよう支援する。	
視覚障害	見えにくさを補うことができるようにするための指導を行う。（弱視レンズ等の効果的な活用、他者へ積極的に関わる意欲や態度の育成、見えやすい環境を知り自ら整えることができるようにする 等）
聴覚障害	聞こえにくさを補うことができるようにするための指導を行う。（補聴器等の効果的な活用、相手や状況に応じた適切なコミュニケーション手段（身振り、簡単な手話等）の活用に関すること 等）
知的障害	できるだけ実生活につながる技術や態度を身に付けられるようにするとともに、社会生活上の規範やルールの理解を促すための指導を行う。
肢体不自由	道具の操作の困難や移動上の制約等を改善できるように指導を行う。（片手で使うことができる道具の効果的な活用、校内の移動しにくい場所の移動方法について考えること及び実際の移動の支援 等）
病弱	服薬管理や環境調整、病状に応じた対応等ができるよう指導を行う。（服薬の意味と定期的な服薬の必要性の理解、指示された服薬量の徹底、眠気を伴い危険性が生じるなどの薬の副作用の理解とその対応、必要に応じた休憩など病状に応じた対応 等）
言語障害	話すことに自信をもち積極的に学習等に取り組むことができるようにするための発音の指導を行う。（一斉指導における個別的な発音の指導、個別指導による音読、九九の発音等の指導）
自閉症・情緒障害	自閉症の特性である「適切な対人関係形成の困難さ」「言語発達の遅れや異なった意味理解」「手順や方法に独特のこだわり」等により、学習内容の習得の困難さを補完する指導を行う。（動作等を利用して意味を理解する、繰り返し練習をして道具の使い方を正確に覚える 等）
学習障害	読み書きや計算等に関して苦手なことをできるようにする、別の方法で代替する、他の能力で補完するなどに関する指導を行う。（文字の形を見分けることができるようにする、パソコン、デジカメ等の使用、口頭試問による評価 等）
注意欠陥多動性障害	行動を最後までやり遂げることが困難な場合には、途中で忘れないように工夫したり、別の方法で補ったりするための指導を行う。（自分を客観視する、物品の管理方法の工夫、メモの使用 等）

別表2 合理的配慮の観点①「教育内容・方法」①-1教育内容

①-1-2 学習内容の変更・調整	
<p>認知の特性、身体の動き等に応じて、具体の学習活動の内容や量、評価の方法等を工夫する。障害の状態、発達の段階、年齢等を考慮しつつ、卒業後の生活や進路を見据えた学習内容を考慮するとともに、学習過程において人間関係を広げることや自己選択・自己判断の機会を増やすこと等に留意する。</p>	
視覚障害	<p>視覚による情報が受容しにくいことを考慮した学習内容の変更・調整を行う。 （状況等の丁寧な説明、複雑な図の理解や読むことに時間がかかること等を踏まえた時間延長、観察では必要に応じて近づくことや触感覚の併用、体育等における安全確保 等）</p>
聴覚障害	<p>音声による情報が受容しにくいことを考慮した学習内容の変更・調整を行う。 （外国語のヒアリング等における音質・音量調整、学習室の変更、文字による代替問題の用意、球技等運動競技における音による合図を視覚的に表示 等）</p>
知的障害	<p>知的発達の遅れにより、全般的に学習内容の習得が困難な場合があることから、理解の程度に応じた学習内容の変更・調整を行う。（焦点化を図ること、基礎的・基本的な学習内容を重視すること、生活上必要な言葉等の意味を確実に理解できるようにすること 等）</p>
肢体不自由	<p>上肢の不自由により時間がかかることや活動が困難な場合の学習内容の変更・調整を行う。（書く時間の延長、書いたり計算したりする量の軽減、体育等での運動の内容を変更 等）</p>
病弱	<p>病気により実施が困難な学習内容等について、主治医からの指導・助言や学校生活管理指導表に基づいた変更・調整を行う。（習熟度に応じた教材の準備、実技を実施可能なものに変更、入院等による学習空白を考慮した学習内容に変更・調整、アレルギー等のために使用できない材料を別の材料に変更 等）</p>
言語障害	<p>発音のしにくさ等を考慮した学習内容の変更・調整を行う。（教科書の音読や音楽の合唱等における個別的な指導、書くことによる代替、構音指導を意識した教科指導 等）</p>
自閉症・情緒障害	<p>自閉症の特性により、数量や言葉等の理解が部分的であったり、偏っていたりする場合の学習内容の変更・調整を行う。（理解の程度を考慮した基礎的・基本的な内容の確実な習得、社会適応に必要な技術や態度を身に付けること 等）</p>
学習障害	<p>「読む」「書く」等特定の学習内容の習得が難しいので、基礎的な内容の習得を確実にすることを重視した学習内容の変更・調整を行う。（習熟のための時間を別に設定、軽重をつけた学習内容の配分 等）</p>
注意欠陥多動性障害	<p>注意の集中を持続することが苦手であることを考慮した学習内容の変更・調整を行う。（学習内容を分割して適切な量にする 等）</p>

別表3 合理的配慮の観点①「教育内容・方法」①-2教育方法

①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	
障害の状態等に応じた情報保障やコミュニケーションの方法について配慮するとともに、教材（ICT及び補助用具を含む）の活用について配慮する。	
視覚障害	見えにくさに応じた教材及び情報の提供を行う。（聞くことで内容が理解できる説明や資料、拡大コピー、拡大文字を用いた資料、触ることができないもの（遠くのものや動きの速いもの等）を確認できる模型や写真等）また、視覚障害を補う視覚補助具やICTを活用した情報の保障を図る。（画面拡大や色の調整、読み上げソフトウェア等）
聴覚障害	聞こえにくさに応じた視覚的な情報の提供を行う。（分かりやすい板書、教科書の音読箇所的位置の明示、要点を視覚的な情報で提示、身振り、簡単な手話等の使用等）また、聞こえにくさに応じた聴覚的な情報・環境の提供を図る。（座席の位置、話者の音量調整、机・椅子の脚のノイズ軽減対策（使用済みテニスボールの利用等）、防音環境のある指導室、必要に応じてFM式補聴器等の使用等）
知的障害	知的発達の遅れに応じた分かりやすい指示や教材・教具を提供する。（文字の拡大や読み仮名の付加、話し方の工夫、文の長さの調整、具体的な用語の使用、動作化や視覚化の活用、数量等の理解を促すための絵カードや文字カード、教え棒、パソコンの活用等）
肢体不自由	書字や計算が困難な子どもに対し上肢の機能に応じた教材や機器を提供する。（書字の能力に応じたプリント、計算ドリルの学習にパソコンを使用、話し言葉が不自由な子どもにはコミュニケーションを支援する機器（文字盤や音声出力型の機器等）の活用等）
病弱	病気のため移動範囲や活動量が制限されている場合に、ICT等を活用し、間接的な体験や他の人とのコミュニケーションの機会を提供する。（友達との手紙やメールの交換、テレビ会議システム等を活用したリアルタイムのコミュニケーション、インターネット等を活用した疑似体験等）
言語障害	発音が不明瞭な場合には、代替手段によるコミュニケーションを行う。（筆談、ICT機器の活用等）
自閉症・情緒障害	自閉症の特性を考慮し、視覚を活用した情報を提供する。（写真や図面、模型、実物等の活用）また、細かな制作等に苦手さが目立つ場合が多いことから、扱いやすい道具を用意したり、補助具を効果的に利用したりする。
学習障害	読み書きに時間がかかる場合、本人の能力に合わせた情報を提供する。（文章を読みやすくするために体裁を変える、拡大文字を用いた資料、振り仮名をつける、音声やコンピュータの読み上げ、聴覚情報を併用して伝える等）
注意欠陥多動性障害	聞き逃しや見逃し、書類の紛失等が多い場合には伝達する情報を整理して提供する。（掲示物の整理整頓・精選、目を合わせての指示、メモ等の視覚情報の活用、静かで集中できる環境づくり等）
重複障害	（視覚障害と聴覚障害）障害の重複の状態と学習の状況に応じた適切なコミュニケーション手段を選択するとともに、必要に応じて状況説明を含めた情報提供を行う。（補聴器、弱視レンズ、拡大文字、簡単な手話の効果的な活用等）

別表4 合理的配慮の観点①「教育内容・方法」①-2教育方法

①-2-2 学習機会や体験の確保	
治療のため学習空白が生じることや障害の状態により経験が不足することに対し、学習機会や体験を確保する方法を工夫する。また、感覚と体験を総合的に活用できる学習活動を通じて概念形成を促進する。さらに、入学試験やその他の試験において配慮する。	
視覚障害	見えにくさからの概念形成の難しさを補うために、実物や模型に触る等能動的な学習活動を多く設ける。また、気付きにくい事柄や理解しにくい事柄（遠かったり大きかったりして触れないもの、動くものとその動き方等）の状況を説明する。さらに、学習の予定を事前に知らせ、学習の過程や状況をその都度説明することで、主体的に状況の判断ができるように指導を行う。
聴覚障害	言語経験が少ないことによる、体験と言葉の結び付きの弱さを補うための指導を行う。（話合いの内容を確認するため書いて提示し読ませる、慣用句等言葉の表記と意味が異なる言葉の指導等）また、日常生活で必要とされる様々なルールや常識等の理解、あるいはそれに基づいた行動が困難な場合があるので、実際の場面を想定し、行動の在り方を考えさせる。
知的障害	知的発達の遅れにより、実際的な生活に役立つ技術や態度の習得が困難であることから、調理実習や宿泊学習等の具体的な活動場面において、生活力が向上するように指導するとともに、学習活動が円滑に進むように、図や写真を活用した日課表や活動予定表等を活用し、自主的に判断し見通しをもって活動できるように指導を行う。
肢体不自由	経験の不足から理解しにくいことや移動の難しさから参加が難しい活動については、一緒に参加することができる手段等を講じる。（新しい単元に入る前に新出の語句や未経験と思われる活動のリストを示し予習できるようにする、車いす使用の子どもが栽培活動に参加できるよう高い位置に花壇を作る 等）
病弱	入院時の教育の機会や短期間で入退院を繰り返す児童生徒の教育の機会を確保する。その際、体験的な活動を通して概念形成を図るなど、入院による日常生活や集団活動等の体験不足を補うことができるように指導する。（視聴覚教材等の活用、ビニール手袋を着用して物に直接触れるなど感染症対策を考慮した指導、テレビ会議システム等を活用した遠隔地の友達と協働した取組 等）
言語障害	発音等の不明瞭さによる自信の喪失を軽減するために、個別指導の時間等を確保し、音読、九九の発音等の指導を行う。
自閉症・情緒障害	自閉症の特性により、実際に体験しなければ、行動等の意味を理解することが困難であることから、実際的な体験の機会を多くするとともに、言葉による指示だけでは行動できないことが多いことから、学習活動の順序を分かりやすくなるよう活動予定表等の活用を行う。
学習障害	身体感覚の発達を促すために活動を通じた指導を行う。（体を大きく使った活動、様々な感覚を同時に使った活動 等）また、活動内容を分かりやすく説明して安心して参加できるようにする。
注意欠陥多動性障害	好きなものと関連付けるなど興味・関心が持てるように学習活動の導入を工夫し、危険防止策を講じた上で本人が直接参加できる体験学習を通じた指導を行う。



別表5 合理的配慮の観点①「教育内容・方法」①-2教育方法

①-2-3 心理面・健康面の配慮	
適切な人間関係を構築するため、集団におけるコミュニケーションについて配慮するとともに、他の幼児児童生徒が障害について理解を深めることができるようにする。学習に見通しが持てるようにしたり、周囲の状況を判断できるようにしたりして心理的不安を取り除く。また、健康状態により、学習内容・方法を柔軟に調整し、障害に起因した不安感や孤独感を解消し自己肯定感を高める。学習の予定や進め方を分かりやすい方法で知らせておくことや、それを確認できるようにすることで、心理的不安を取り除くとともに、周囲の状況を判断できるようにする。	
視覚障害	自己の視覚障害を理解し、眼疾の進行や事故を防止できるようにするとともに、身の回りの状況が分かりやすい校内の環境作りを図り、見えにくい時には自信をもって尋ねられるような雰囲気を作る。また、視覚に障害がある児童生徒等が集まる交流の機会の情報提供を行う。
聴覚障害	情報が入らないことによる孤立感を感じさせないような学級の雰囲気作りを図る。また、通常の学級での指導に加え、聴覚に障害がある児童生徒等が集まる交流の機会の情報提供を行う。
知的障害	知的発達の遅れ等によって、友人関係を十分には形成できないことや、年齢が高まるにつれて友人関係の維持が困難になることもあることから、集団の一員として帰属意識がもてるような機会を確保するとともに、自尊心や自己肯定感、ストレス等の状態を踏まえた適切な対応を図る。
肢体不自由	下肢の不自由による転倒のしやすさ、車いす使用に伴う健康上の問題等を踏まえた支援を行う。(体育の時間における膝や肘のサポーターの使用、長距離の移動時の介助者の確保、車いす使用時に必要な1日数回の姿勢の変換及びそのためのスペースの確保 等)
病弱	入院や手術、病気の進行への不安等を理解し、心理状態に応じて弾力的に指導を行う。(治療過程での学習可能な時期を把握し健康状態に応じた指導、アレルギーの原因となる物質の除去や病状に応じた適切な運動等について医療機関と連携した指導 等)
言語障害	言語障害(構音障害、吃音等)のある児童生徒等が集まる交流の機会の情報提供を行う。
自閉症・情緒障害	情緒障害のある児童生徒等の状態(情緒不安や不登校、ひきこもり、自尊心や自己肯定感の低下等)に応じた指導を行う。(カウンセリング的対応や医師の診断を踏まえた対応 等)また、自閉症の特性により、二次的な障害として、情緒障害と同様の状態が起きやすいことから、それらの予防に努める。
学習障害	苦手な学習活動があることで、自尊心が低下している場合には、成功体験を増やしたり、友達から認められたりする場面を設ける。(文章を理解すること等に時間がかかることを踏まえた時間延長、必要な学習活動に重点的な時間配分、受容的な学級の雰囲気作り、困ったときに相談できる人や場所の確保 等)
注意欠陥多動性障害	活動に持続的に取り組むことが難しく、また不注意による紛失等の失敗や衝動的な行動が多いので、成功体験を増やし、友達から認められる機会の増加に努める。(十分な活動のための時間の確保、物品管理のための棚等の準備、良い面を認め合えるような受容的な学級の雰囲気作り、感情のコントロール方法の指導、困ったときに相談できる人や場所の確保 等)
重複障害	(視覚障害と聴覚障害)見えにくく聞こえにくいことから多人数と同時にコミュニケーションが取りにくいいため、学級内で孤立しないように、適時・適切な情報の提供を保障する。

別表6 合理的配慮の観点②「支援体制」

②-1 専門性のある指導体制の整備	
<p>校長がリーダーシップを発揮し、学校全体として専門性のある指導体制を確保することに努める。そのため、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成するなどにより、学校内外の関係者の共通理解を図るとともに、役割分担を行う。また、学習の場面等を考慮した校内の役割分担を行う。必要に応じ、適切な人的配置（支援員等）を行うほか、学校内外の教育資源（通級による指導や特別支援学級、特別支援学校のセンター的機能、専門家チーム等による助言等）の活用や医療、福祉、労働等関係機関との連携を行う。</p>	
視覚障害	<p>特別支援学校（視覚障害）のセンター的機能及び弱視特別支援学級、通級による指導等の専門性を積極的に活用する。また、眼科医からのアドバイスを日常生活で必要な配慮に生かすとともに、理解啓発に活用する。さらに、点字図書館等地域資源の活用を図る。</p>
聴覚障害	<p>特別支援学校（聴覚障害）のセンター的機能及び難聴特別支援学級、通級による指導等の専門性を積極的に活用する。また、耳鼻科、補聴器店、難聴児親の会、聴覚障害者協会等との連携による、理解啓発のための学習会や、児童生徒のための交流会の活用を図る。</p>
知的障害	<p>知的障害の状態は外部からは分かりにくいことから、専門家からの支援や、特別支援学校（知的障害）のセンター的機能及び特別支援学級等の専門性を積極的に活用する。また、てんかん等への対応のために、必要に応じて医療機関との連携を図る。</p>
肢体不自由	<p>体育担当教員、養護教諭、栄養職員、学校医を含むサポートチームが教育的ニーズを把握し支援の内容方法を検討する。必要に応じて特別支援学校（肢体不自由、知的障害）からの支援を受けるとともにPT、OT、ST等の指導助言を活用する。また、医療的ケアが必要な場合には看護師等、医療関係者との連携を図る。</p>
病弱	<p>学校生活を送る上で、病気のために必要な生活規制や必要な支援を明確にするとともに、急な病状の変化に対応できるように校内体制を整備する。（主治医や保護者からの情報に基づく適切な支援、日々の体調把握のための保護者との連携、緊急の対応が予想される場合の全教職員による支援体制の構築）また、医療的ケアが必要な場合には看護師等、医療関係者との連携を図る。</p>
言語障害	<p>特別支援学校（聴覚障害）のセンター的機能及び言語障害特別支援学級、通級による指導等の専門性を積極的に活用する。また、言語障害の専門家（ST等）との連携による指導の充実を図る。</p>
自閉症・情緒障害	<p>自閉症や情緒障害を十分に理解した専門家からの支援や、特別支援学校のセンター的機能及び自閉症・情緒障害特別支援学級、医療機関等の専門性を積極的に活用し、自閉症等の特性について理解を深められるようにする。</p>
学習障害	<p>特別支援学校や発達障害者支援センター、教育相談担当部署等の外部専門家からの助言等を生かし、指導の充実を図る。また、通級による指導等学校内の資源の有効活用を図る。</p>
注意欠陥多動性障害	<p>特別支援学校や発達障害者支援センター、教育相談担当部署等の外部専門家からの助言等を生かし、指導の充実を図る。また、通級による指導等学校内の資源の有効活用を図る。</p>

別表7 合理的配慮の観点②「支援体制」

②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	
<p>障害のある幼児児童生徒に関して、障害によって日常生活や学習場面において様々な困難が生じることについて周囲の幼児児童生徒の理解啓発を図る。共生の理念を涵養するため、障害のある幼児児童生徒の集団参加の方法について、障害のない幼児児童生徒が考え実践する機会や障害のある幼児児童生徒自身が障害について周囲の人に理解を広げる方法等を考え実践する機会を設定する。また、保護者、地域に対しても理解啓発を図るための活動を行う。</p>	
視覚障害	その子特有の見えにくさ、使用する視覚補助具・教材について周囲の児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。
聴覚障害	使用する補聴器等や、多様なコミュニケーション手段について、周囲の児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。
知的障害	知的障害の状態は他者から分かりにくいこと、かつ、その特性としては、実体験による知識等の習得が必要であることから、それらの特性を踏まえた対応ができるように、周囲の児童生徒等や教職員、保護者への理解啓発に努める。
肢体不自由	移動や日常生活動作に制約があることや、移動しやすさを確保するために協力できることなどについて、周囲の児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。
病弱	病状によっては特別な支援を必要とするという理解を広め、病状が急変した場合に緊急な対応ができるよう、児童生徒、教職員、保護者の理解啓発に努める。 (ペースメーカー使用者の運動制限など外部から分かりにくい病気とその病状を維持・改善するために必要な支援に関する理解、心身症や精神疾患等の特性についての理解、心臓発作やてんかん発作等への対応についての理解 等)
言語障害	構音障害、吃音等の理解、本人の心情理解等について、周囲の児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。
自閉症・情緒障害	他者からの働きかけを適切に受け止められないことがあることや言葉の理解が十分ではないことがあること、方法や手順に独特のこだわりがあること等について、周囲の児童生徒等や教職員、保護者への理解啓発に努める。
学習障害	努力によっても変わらない苦手なことや生まれつき得意なこと等、様々な個性があることや特定の感覚が過敏な場合もあること等について、周囲の児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。
注意欠陥多動性障害	不適切と受け止められやすい行動についても、本人なりの理由があることや、生まれつきの特性によること、危険な行動等の安全な制止、防止の方策等について、周囲の児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。

別表8 合理的配慮の観点②「支援体制」

②-3 災害時等の支援体制の整備	
災害時等の対応について、障害のある幼児児童生徒の状態を考慮し、危機の予測、避難方法、災害時の人的体制等、災害時体制マニュアルを整備する。また、災害時等における対応が十分にできるよう、避難訓練等の取組に当たっては、一人一人の障害の状態等を考慮する。	
視覚障害	見えにくさに配慮して災害とその際の対応や避難について理解できるようにするとともに、緊急時の安全確保ができる校内体制を整備する。
聴覚障害	放送等による避難指示を聞き取ることができない児童生徒に対し、緊急時の安全確保と避難誘導等を迅速に行うための校内体制を整備する。
知的障害	適切な避難等の行動の仕方が分からず、極度に心理状態が混乱することを想定した避難誘導のための校内体制を整備する。
肢体不自由	移動の困難さを踏まえた避難の方法や体制及び避難後に必要となる支援体制を整備する。（車いすで避難する際の経路や人的体制の確保、移動が遅れる場合の対応方法の検討、避難後に必要な支援の一覧表の作成 等）
病弱	医療機関への搬送や必要とする医療機関からの支援を受けることが出来るようにするなど、子どもの病気に応じた支援体制を整備する。（病院へ搬送した場合の対応方法、救急隊員等への事前の連絡、急いで避難することが困難な児童生徒（心臓病等）が逃げ遅れないための支援 等）
言語障害	発語による連絡が難しい場合には、その代替手段により安否を伝える方法等を取り入れた避難訓練を行う。
自閉症・情緒障害	自閉症や情緒障害のある児童生徒は、災害時の環境の変化に適応することが難しく、極度に混乱した心理状態やパニックに陥ることを想定した支援体制を整備する。
学習障害	指示内容を素早く理解し、記憶することや、掲示物を読んで避難経路等を理解することが難しい場合等を踏まえた避難訓練に取り組む。（具体的で分かりやすい説明、不安感を持たずに行動ができるような避難訓練の継続 等）
注意欠陥多動性障害	落ち着きを失ったり、指示の途中で動いたりする傾向を踏まえた、避難訓練に取り組む。（項目を絞った短時間での避難指示、行動を過度に規制しない範囲で見守りやパニックの予防 等）

別表9 合理的配慮の観点③「施設・設備」

③-1 校内環境のバリアフリー化	
<p>障害のある幼児児童生徒が安全かつ円滑に学校生活を送ることができるよう、障害の状態等に応じた環境にするために、スロープや手すり、便所、出入口、エレベーター等について施設の整備を計画する際に配慮する。また、既存の学校施設のバリアフリー化についても、障害のある幼児児童生徒の在籍状況等を踏まえ、学校施設に関する合理的な整備計画を策定し、計画的にバリアフリー化を推進できるよう配慮する。</p>	
視覚障害	校内での活動や移動に支障がないように校内環境を整備する。（廊下等も含めて校内の十分な明るさの確保、分かりやすい目印、段差等を明確に分かるようにして安全を確保する 等）
聴覚障害	放送等の音声情報を視覚的に受容することができる校内環境を整備する。（教室等の字幕放送受信システム 等）
知的障害	自主的な移動を促せるよう、動線や目的の場所が視覚的に理解できるようにするなどの校内環境を整備する。
肢体不自由	車いすによる移動やつえを用いた歩行ができるように、教室配置の工夫や施設改修を行う。（段差の解消、スロープ、手すり、開き戸、自動ドア、エレベーター、障害者用トイレの設置 等）
病弱	心臓病等のため階段を使用しての移動が困難な場合や児童生徒が自ら医療上の処置（二分脊椎症等の自己導尿等）を必要とする場合等に対応できる施設・設備を整備する。
自閉症・情緒障害	自閉症の特性を考慮し、備品等を分かりやすく配置したり、動線や目的の場所が視覚的に理解できるようにしたりなどする。

別表 10 合理的配慮の観点③「施設・設備」

③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	
<p>幼児児童生徒一人一人が障害の状態等に応じ、十分に学習に取り組めるよう、必要に応じて様々な教育機器等の導入や施設の整備を行う。また、一人一人の障害の状態、障害の特性、認知特性、体の動き、感覚等に応じて、その持てる能力を最大限活用して自主的、自発的に学習や生活ができるよう、各教室等の施設・設備について、分かりやすさ等に配慮を行うとともに、日照、室温、音の影響等に配慮する。さらに、心のケアを必要とする幼児児童生徒への配慮を行う。</p>	
視覚障害	見えやすいように環境を整備する。(眩しさを防ぐために光の調整を可能にする設備(ブラインドやカーテン、スタンド等)必要に応じて教室に拡大読書器を設置する 等)
聴覚障害	教室等の聞こえの環境を整備する。(絨毯・畳の指導室の確保、行事における進行次第や挨拶文、劇の台詞等の文字表示 等)
知的障害	危険性を予知できないことによる高所からの落下やけが等が見られることから、安全性を確保した校内環境を整備する。また、必要に応じて、生活力の向上が必要であることから、生活体験を主とした活動を可能にする場を用意する。
肢体不自由	上肢や下肢の動きの制約に対して施設・設備を工夫又は改修するとともに、車いす等で移動しやすいような空間を確保する。(上下式のレバーの水栓、教室内を車いすで移動できる空間、廊下の障害物除去、姿勢を変換できる場所、休憩スペースの設置等)
病弱	病気の状態に応じて、健康状態や衛生状態の維持、心理的な安定等を考慮した施設・設備を整備する。(色素性乾皮症の場合の紫外線カットフィルム、相談や箱庭等の心理療法を活用できる施設、落ち着けない時や精神状態が不安定な時の児童生徒が落ち着ける空間の確保等)
自閉症・情緒障害	衝動的な行動によるけが等が見られることから、安全性を確保した校内環境を整備する。また、興奮が収まらない場合を想定し、クールダウン等のための場所を確保するとともに、必要に応じて、自閉症特有の感覚(明るさやちらつきへの過敏性等)を踏まえた校内環境を整備する。
学習障害	類似した情報が混在していると、必要な情報を選択することが困難になるため、不要な情報を隠したり、必要な情報だけが届くようにしたりできるように校内の環境を整備する。(余分な物を覆うカーテンの設置、視覚的にわかりやすいような表示 等)
注意欠陥多動性障害	注意集中が難しいことや衝動的に行動してしまうこと、落ち着きを取り戻す場所が必要なこと等を考慮した施設・設備を整備する。(余分なものを覆うカーテンの設置、照明器具等の防護対策、危険な場所等の危険防止柵の設置、静かな小部屋の設置 等)

別表 1 1 合理的配慮の観点③「施設・設備」

③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	
災害時等への対応のため、障害の状態等に応じた施設・設備を整備する。	
視覚障害	避難経路に明確な目印や照明を設置する。
聴覚障害	緊急情報を視覚的に受容することができる設備を設置する。
知的障害	災害等発生後における行動の仕方が分からないことによる混乱した心理状態に対応できるように、簡潔な導線、分かりやすい設備の配置、明るさの確保等を考慮して施設・設備を整備する。
肢体不自由	移動の困難さに対して避難経路を確保し、必要な施設・設備の整備を行うとともに、災害等発生後の必要な物品を準備する。(車いす、担架、非常用電源や手動で使える機器 等)
病弱	災害等発生時については病気のため迅速に避難できない児童生徒の避難経路を確保する、災害等発生後については薬や非常用電源の確保するとともに、長期間の停電に備え手動で使える機器等を整備する。
自閉症・情緒障害	災害等発生後における環境の変化に適応できないことによる心理状態(パニック等)を想定し、外部からの刺激を制限できるような避難場所及び施設・設備を整備する。
注意欠陥多動性障害	災害等発生後、避難場所において落ち着きを取り戻す場所が必要なことを考慮した静かな小空間等を確保する。

## 5 資 料

関係機関等のホームページアドレス



	関係機関名	内 容	リンク先アドレス
1	青森県教育庁学校教育課	青森県特別支援教育 情報サイト 青森県教育支援フ ァ ィ ル	<a href="https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/tokushi_shiryou.html">https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/tokushi_shiryou.html</a>
2	国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育情報センター	発達障害に関する指 導方法・支援 発達障害に関する教 材教具・支援機器	<a href="http://icedd.nise.go.jp">http://icedd.nise.go.jp</a>
3	国立特別支援教育総合研究所	各障害の理解 指導方法・支援 教材教具・支援機器	<a href="http://www.nise.go.jp">http://www.nise.go.jp</a>
4	文部科学省	特別支援教育に関す る学習指導要領等 支援事業	<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm</a>
5	青森県総合学校教育センター	特別支援教育に関す る研修講座 教材教具	<a href="http://ts.edu-c.pref.aomori.jp">http://ts.edu-c.pref.aomori.jp</a>

平成28年度「青森県教育支援ファイル」作成ワーキンググループ

所 属	職 名	氏 名
国立特別支援教育総合研究所	主任研究員	武 富 博 文
青 森 市 立 浪 打 小 学 校	教 諭	小 鹿 真 紀 子
板 柳 町 立 板 柳 中 学 校	教 諭	阿 部 忍
平 川 市 立 竹 館 小 学 校	教 諭	山 口 朋 子
三 沢 市 立 上 久 保 小 学 校	教 諭	杉 田 弘 憲
む つ 市 立 第 二 田 名 部 小 学 校	教 諭	松 下 努
三 戸 町 立 三 戸 小 学 校	教 諭	川 村 久 美 子
県 立 青 森 若 葉 養 護 学 校	教 諭	村 田 友 和
県 立 森 田 養 護 学 校	教 諭	本 多 秀 則
県 立 弘 前 第 二 養 護 学 校	教 諭	高 橋 さ つ き
県 立 七 戸 養 護 学 校	教 諭	坂 田 倫 靖
県 立 む つ 養 護 学 校	教 諭	石 岡 ゆ う 子
県 立 八 戸 第 二 養 護 学 校	教 諭	橋 本 政 孝
東 青 教 育 事 務 所	指 導 主 事	相 馬 和 実
西 北 教 育 事 務 所	指 導 主 事	坂 本 朋 子
中 南 教 育 事 務 所	指 導 主 事	淋 代 秀 樹
上 北 教 育 事 務 所	指 導 主 事	木 村 智
下 北 教 育 事 務 所	指 導 主 事	伊 藤 慎
三 八 教 育 事 務 所	指 導 主 事	久 保 慶 喜
青 森 県 総 合 学 校 教 育 セ ン タ ー	指 導 主 事	越 膳 一 也

所属は平成28年度のものである。

平成29年度「青森県教育支援ファイル」作成ワーキンググループ

所 属	職 名	氏 名
国立特別支援教育総合研究所	総括研究員	武 富 博 文
青 森 市 立 浪 打 小 学 校	教 諭	小 鹿 真 紀 子
板 柳 町 立 板 柳 中 学 校	教 諭	阿 部 忍
平 川 市 立 竹 館 小 学 校	教 諭	山 口 朋 子
三 沢 市 立 上 久 保 小 学 校	教 諭	杉 田 弘 憲
む つ 市 立 第 二 田 名 部 小 学 校	教 諭	松 下 努
三 戸 町 立 斗 川 小 学 校	教 諭	尾 形 克 幸
県 立 北 斗 高 等 学 校	教 諭	伊 藤 努
県 立 尾 上 総 合 高 等 学 校	教 諭	鎌 田 修 三
県 立 八 戸 中 央 高 等 学 校	教 諭	村 井 喜 代 子
県 立 盲 学 校	教 諭	岩 谷 し の
県 立 青 森 聾 学 校	教 諭	成 田 光 順
県 立 青 森 第 二 養 護 学 校	教 諭	盛 寿 寛
県 立 青 森 第 一 高 等 養 護 学 校	教 諭	上 村 直 威
県 立 青 森 若 葉 養 護 学 校	教 諭	村 田 友 和
青 森 県 総 合 学 校 教 育 セ ン タ ー	指 導 主 事	千 葉 新 一

この本の作成に当たって、県教育庁においては、次の者が編集に当たった。

一戸 利則	県教育庁学校教育課長
柿崎 朗	県教育庁学校教育課特別支援教育推進室長
菊地 康弘	県教育庁学校教育課特別支援教育推進室主任指導主事
船水 直樹	県教育庁学校教育課特別支援教育推進室指導主事
外崎 毅	県教育庁学校教育課特別支援教育推進室指導主事
藤川 雅人	県教育庁学校教育課特別支援教育推進室指導主事
山口 安祈子	県教育庁学校教育課小中学校指導グループ指導主事
矢田 亜希子	県教育庁学校教育課高等学校指導グループ指導主事